

3-3. 生涯学習施設

(1) 施設の整備状況

①施設の概要

生涯学習施設は、地域住民の活動やふれあいを支援する場として、市内に 19 施設整備されています。そのうち、市民センター（公民館）は現在学区ごとに 13 施設あります。

用途	整理番号	施設名称	施設概要						建物状況				管理状況
			所在地	学区	建築年度 (開設年度)	構造	階数	延床面積	避難所 指定	耐震性		バリアフリー 対応	
										診断	改修		
市民センター (公民館)	1	志津市民センター	青地町561	志津	昭和52年度	RC	2	690㎡	○	済	不要	一部済	直営
	2	志津南市民センター	若草五丁目10	志津南	平成8年度	S	1	521㎡	○	不要	不要	済	直営
	3	草津市民センター	草津一丁目4-33	草津	昭和56年度	S	2	671㎡	○	済	済	済	直営
	4	大市民センター	大路二丁目9-11	大路	平成20年度	S	3	661㎡	○	不要	不要	済	直営
	5	渋川市民センター	西渋川二丁目9-38	渋川	平成18年度	S	3(1)	566㎡	○	不要	不要	済	直営
	6	矢倉市民センター	東矢倉二丁目13-6	矢倉	昭和57年度	S	2	476㎡	○	不要	不要	一部済	直営
	7	老上市民センター	野路町520	老上	昭和60年度	S	2	489㎡	○	不要	不要	一部済	直営
	8	玉川市民センター	野路九丁目7-42	玉川	昭和59年度	S	2	481㎡	○	不要	不要	一部済	直営
	9	南笠東市民センター	笠山一丁目1-47	南笠東	平成10年度	S	2	708㎡	○	不要	不要	済	直営
	10	山田市民センター	南山田町678	山田	昭和59年度	S	2	473㎡	○	不要	不要	一部済	直営
	11	笠縫市民センター	上笠一丁目18-33	笠縫	昭和51年度	RC	2	534㎡	○	済	不要	一部済	直営
	12	笠縫東市民センター	集町58-8	笠縫東	昭和57年度	S	2	482㎡	○	不要	不要	一部済	直営
	13	常盤市民センター	志那中町111-1	常盤	昭和52年度	RC	2	557㎡	○	済	不要	一部済	直営
その他	14	まちづくりセンター	西大路町9-6	大路	昭和54年度 (平成14年度)	RC	2	2,992㎡	-	未	未	済	指定管理
	15	草津コミュニティ支援センター	西大路町10-12	大路	平成9年度	S	2	318㎡	-	不要	不要	一部済	その他
	16	人権センター	野村三丁目1-18	笠縫	昭和47年度 (平成14年度)	RC	3	713㎡	-	未	未	一部済	直営
	17	アミカホール	草津三丁目13-30	草津	平成3年度	RC	2	1,656㎡	-	不要	不要	一部済	指定管理
	18	図書館	草津町1547	草津	昭和58年度	RC	3	2,782㎡	-	不要	不要	済	直営
	19	南草津図書館	野路一丁目15-5	玉川	平成14年度	SRC	6(5)	931㎡	-	不要	不要	済	直営

* 建築年度・・・主要な棟のうち最も古い棟の年度

* 階数の（ ）・・・所在階数

【市民センター（公民館）】

市民センター（公民館）は、地域の特性を活かした社会教育の推進を図るとともに、協働のまちづくりを推進するために設置された施設であり、公民館事業（貸館業務、各種講座の開催、社会教育団体等の支援等）および市民センター事業（各種証明書の発行、まちづくり協議会の支援等）が行われています。現在、志津、志津南、草津、大路、渋川、矢倉、老上、玉川、南笠東、山田、笠縫、笠縫東、常盤市民センターの 13 施設が整備されています。構造は志津、笠縫、常盤市民センターが鉄筋コンクリート造であり、その他の施設は鉄骨造です。草津市民センターは耐震化済みで、その他の施設は新耐震基準に適合しています。バリアフリー対応は、志津南、草津、大路、渋川、南笠東市民センターが実施済みであり、その他の施設は一部実施済みです。管理は直営で行われています。

【その他の施設】

市民センター以外の生涯学習施設としてまちづくりセンター、草津コミュニティ支援センター、人権センター、草津アマカホール、図書館、南草津図書館の6施設が整備されています。

まちづくりセンターは、草津市勤労福祉センター・働く婦人の家として昭和54年度に竣工した建物に、平成14年度に開設されました。市民が主体的に行う社会的、公益的なまちづくり活動の推進を図るための施設です。構造は鉄筋コンクリート造で、耐震化は実施されていません。バリアフリー対応は実施済みで、管理は指定管理者制度が導入されています。平成30年度に(仮称)市民総合交流センターに移転予定です。

草津コミュニティ支援センターは、地域のコミュニティ振興を趣旨として寄付を受け、可能な限り市民が自由に利用できる施設とするため、普通財産として(公財)草津市コミュニティ事業団に無償貸与している施設です。構造は鉄骨造で、新耐震基準に適合しています。バリアフリー対応は一部実施済みです。

人権センターは、草津市勤労者青少年ホームとして昭和47年度に竣工した建物に、同和問題をはじめあらゆる人権問題の解決に向け、啓発事業や講座の開催などを行う施設として、平成14年度に開設されました。建物は鉄筋コンクリート造であり、耐震化は実施されていません。バリアフリー対応は一部実施済みであり、管理は直営で行われています。平成30年度に(仮称)市民総合交流センターに移転予定です。

草津アマカホールは、文化の向上と芸術の振興を図ることを目的とした施設であり、約300席のホールを備え、様々な催しに利用されています。構造は鉄筋コンクリート造であり、新耐震基準に適合しています。バリアフリー対応は一部実施済みであり、管理は指定管理者制度が導入されています。

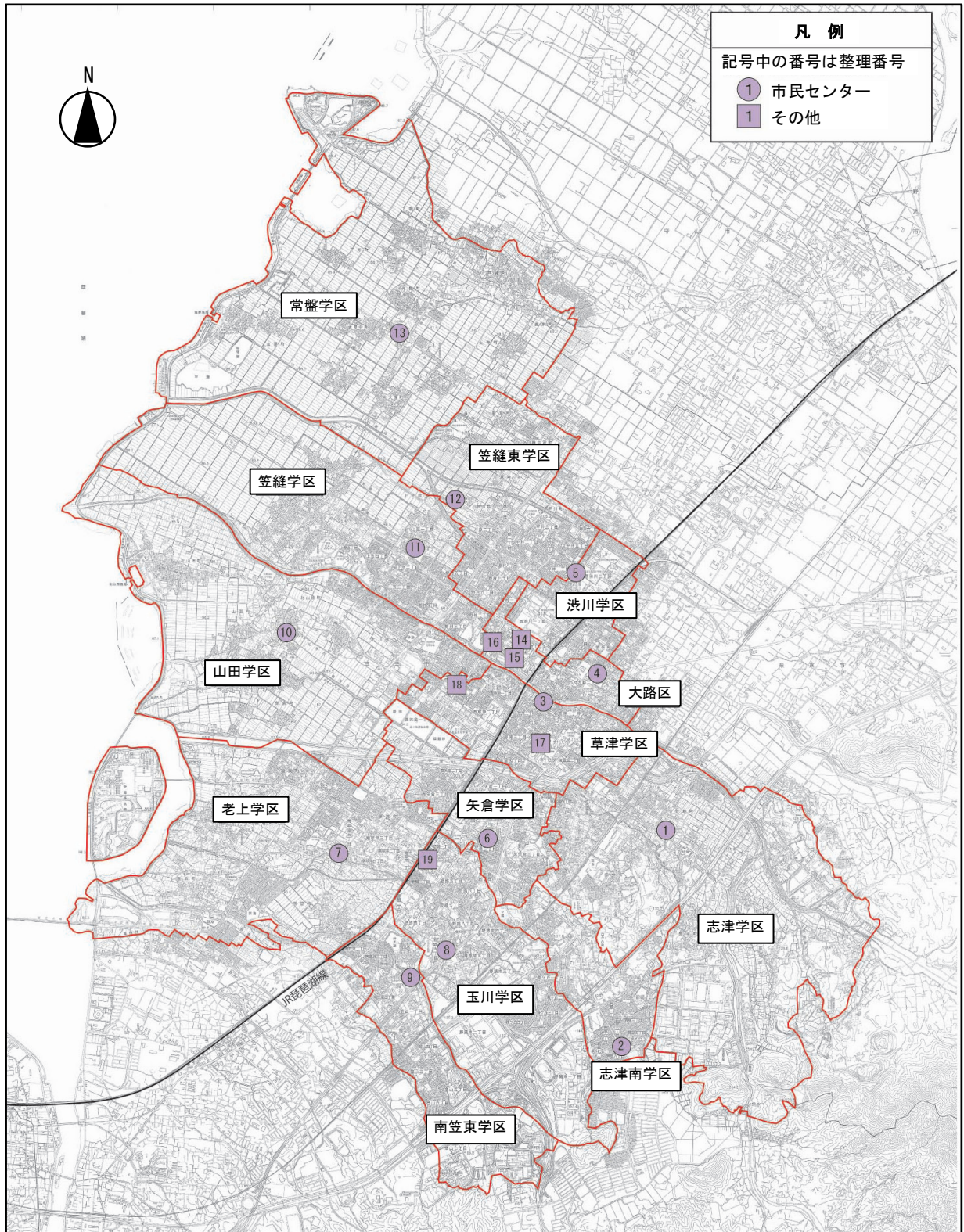
図書館(草津市立図書館)は子どもから高齢者の方に自発的な学習の機会を提供するための生涯学習施設です。構造は鉄筋コンクリート造であり、新耐震基準に適合しています。また、バリアフリー対応は実施済みであり、管理は直営で行われています。

南草津図書館はフェリエ南草津の5階にあり、南草津駅前の立地条件を活かして、子どもから高齢者の方まで幅広い年齢層の市民が利用できる図書館となっています。構造は鉄骨鉄筋コンクリート造であり、新耐震基準に適合しています。バリアフリー対応はすべて実施済みであり、管理は直営で行われています。

②施設の配置状況

市民センターは、各学区単位にあります。その他の生涯学習施設は市の中心部に集中しています。

■生涯学習施設配置状況図

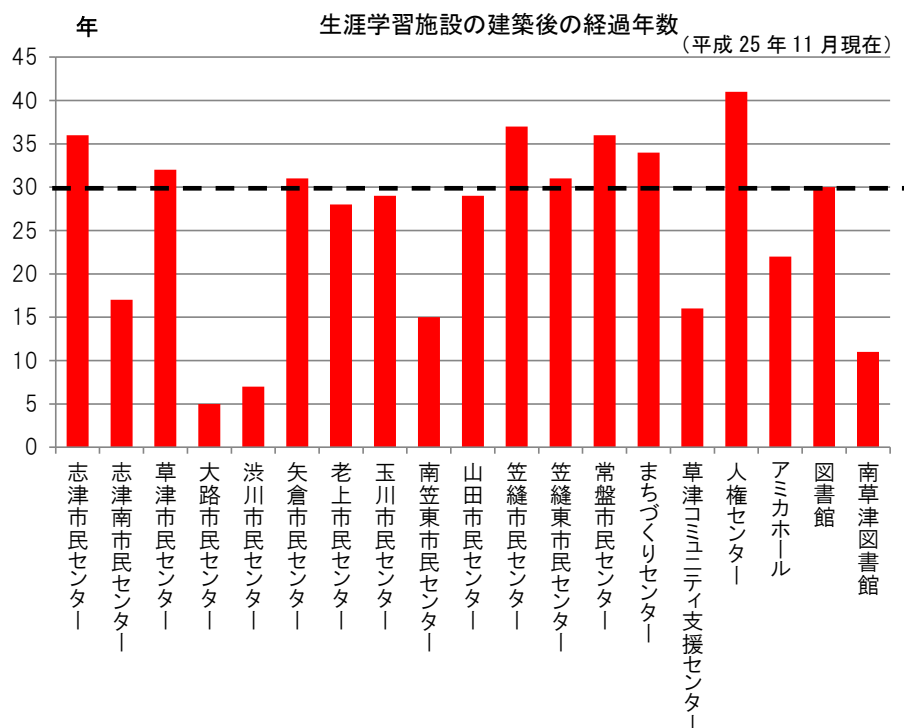


平成 26 年 4 月現在

③建築後の経過年数

建築後の経過年数は、志津・草津・矢倉・笠縫・笠縫東・常盤市民センター、まちづくりセンターおよび人権センターが、大規模な修繕・更新が必要となる築 30 年以上を経過しており、老上・玉川・山田市民センターは 25 年以上経過しています。大路市民センターは 5 年以下です。

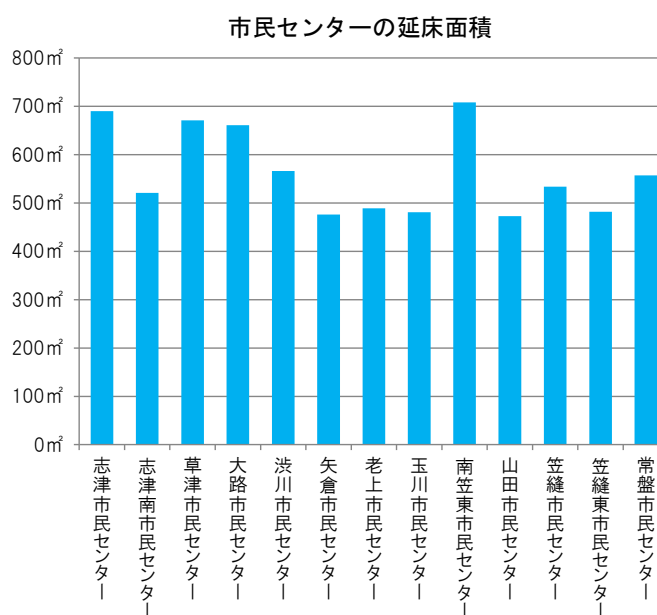
まちづくりセンターの建築後の経過年数は 34 年、草津アミカホールは 22 年、図書館は 30 年、南草津図書館は 11 年となっています。



④延床面積

a) 市民センター

市民センターの延床面積は、南笠東市民センターが 700 m²を超えており、志津・草津・大路市民センターが 600 m²以上、渋川・常盤・笠縫・志津南市民センターが 500 m²以上、他の 5 市民センターは 400 m²以上となっています。

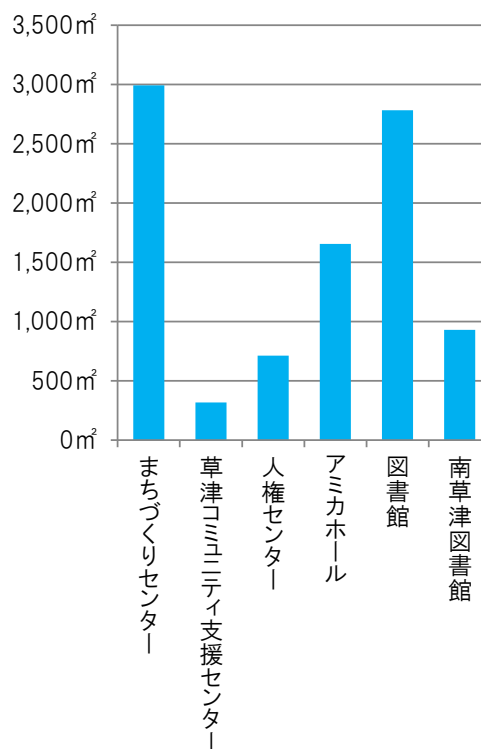


b) その他の施設

その他の生涯学習施設の延床面積は、まちづくりセンターが約 3,000 m²、草津アマカホールが約 1,700 m²、図書館が約 2,800 m²、南草津図書館が 1,000 m²弱となっています。

また、草津コミュニティ支援センターが約 300 m²、人権センターが約 700 m²となっています。

その他の施設の延床面積



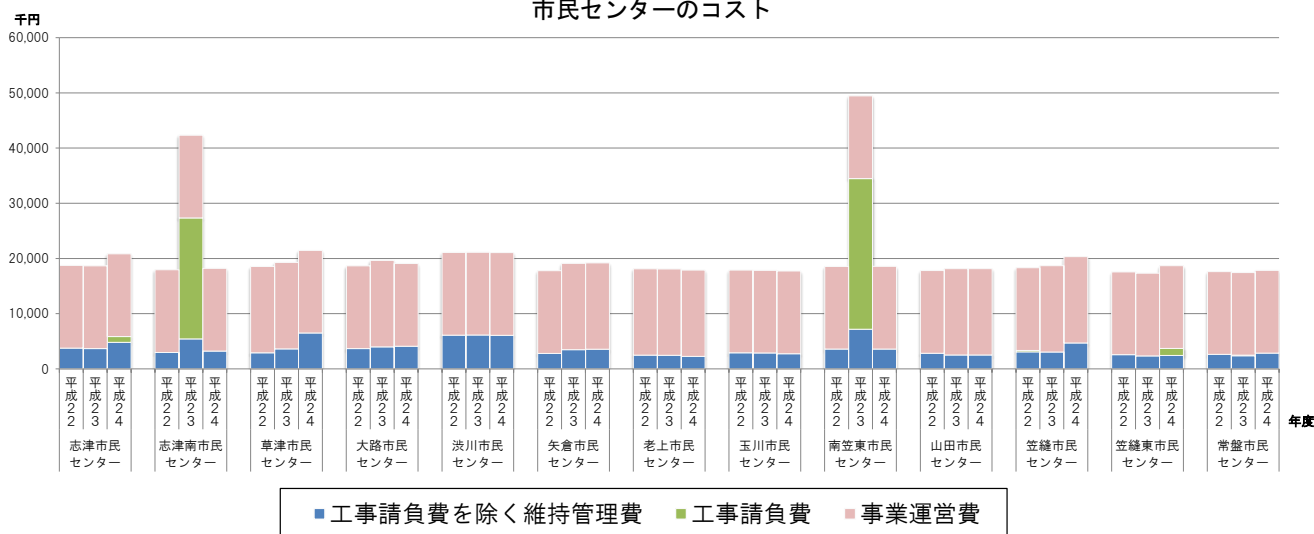
(2) 施設のコスト状況

a) 市民センター

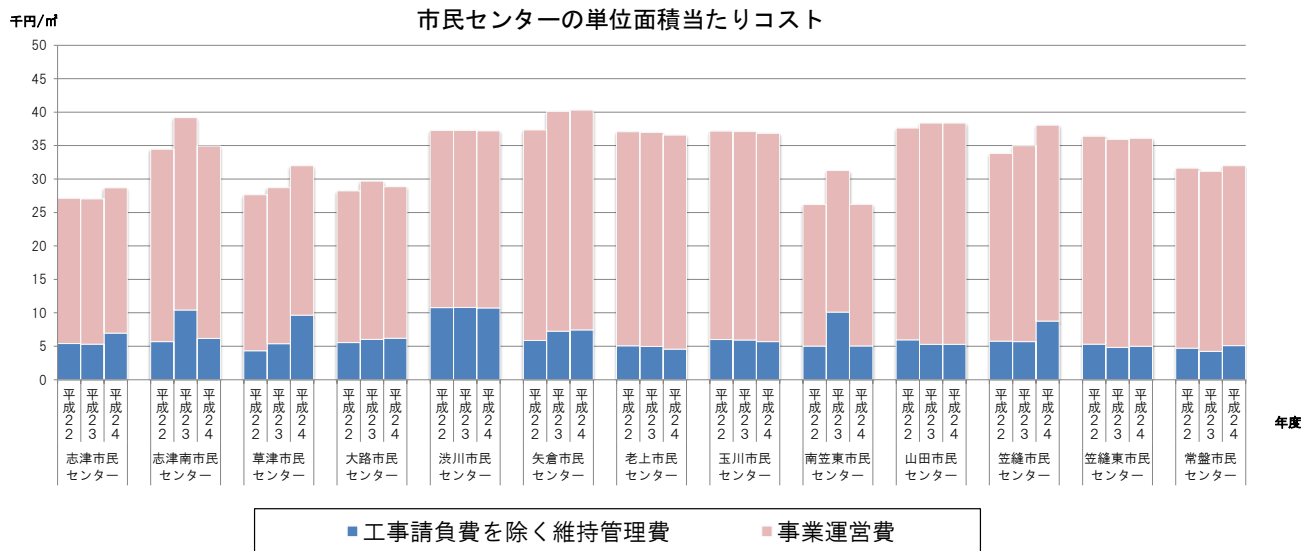
市民センターの事業運営費は、各市民センターとも年間約 1,500 万円程度となっています。

維持管理費のうち工事請負費で 2,000 万円以上を計上した志津南・南笠東市民センターを除き、市民センターの維持管理費は年間 2000 万円前後となっています。

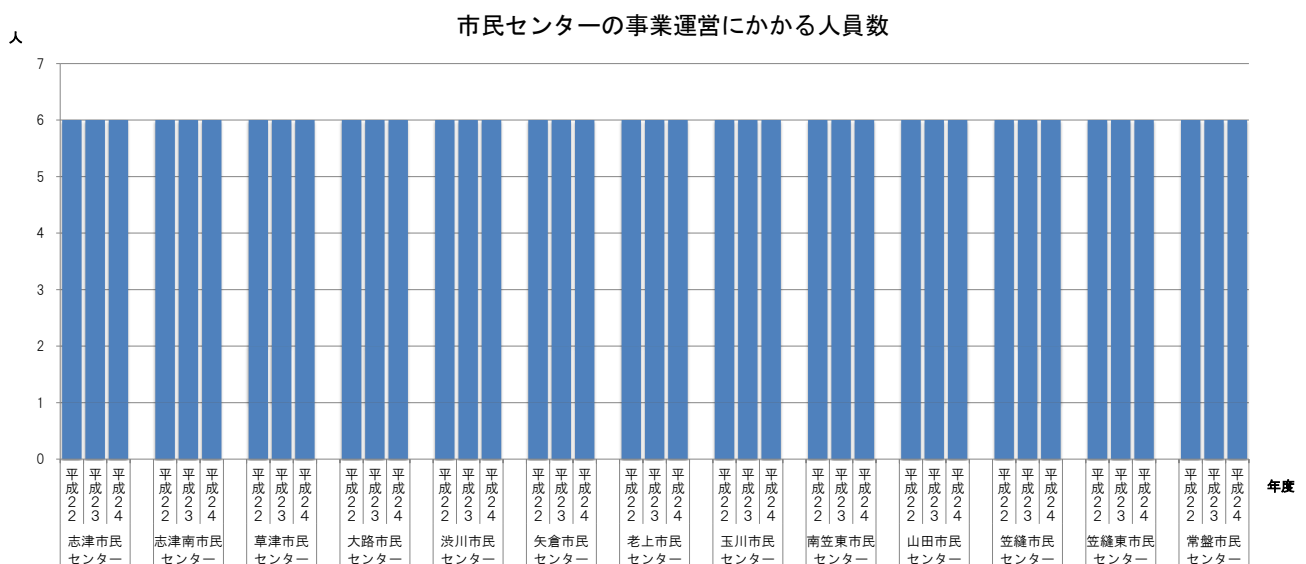
市民センターのコスト



単位面積当たりのコストは、平成 24 年度において最もコストが高い施設は矢倉市民センターの約 4 万円/㎡、最もコストが低い施設は南笠東市民センターの約 2.6 万円/㎡となっており、その差は約 1.4 万円/㎡です。



市民センターの事業運営にかかる人員数は、各施設とも人員数は6人のまま変わっていません。



b) その他の施設

<まちづくりセンター>

工事請負費が発生した平成 22 年度を除くと、コストは約 3,700 万円で推移しています。単位面積当たりのコストは、約 1 万 2 千円/m²で推移しています。

<草津コミュニティ支援センター>

維持管理費、事業運営費合わせて約 130 万円前後で推移しており、各施設と比べ最もコストが低くなっています。単位面積当たりのコストも、約 4,300 円/m²と最も低くなっていますが、維持管理費は約 3,000 円/m²と他の施設と変わらない金額となっています。

<人権センター>

事業運営費は約 6300 万円前後で推移しており、各年で若干増加しています。単位面積当たりのコストは、約 9.2 万円/m²前後で推移しています。

<草津アミカホール>

平成 22 年度から毎年約 900～1500 万円の工事請負費が発生しています。工事請負費を除くコストは、年間約 4,500 万円前後で推移しています。単位面積当たりのコストは、約 2.7 万円/m²となっています。なお、平成 23 年度から指定管理者制度を導入し、市職員は配置していません。

<図書館>

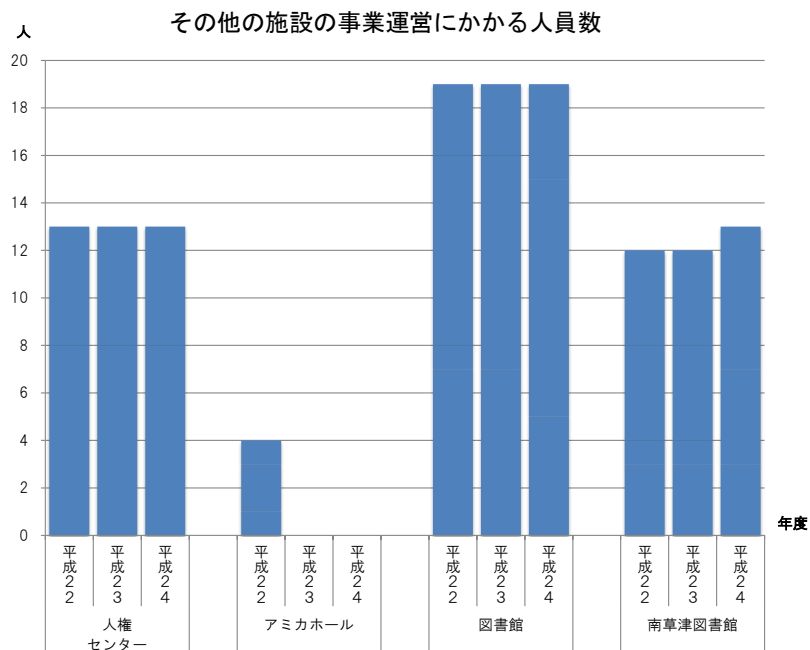
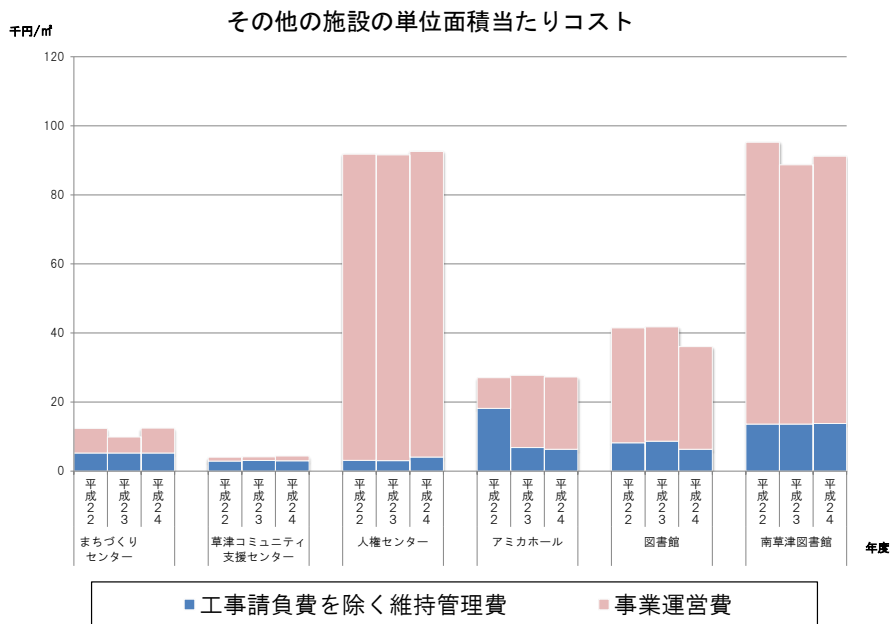
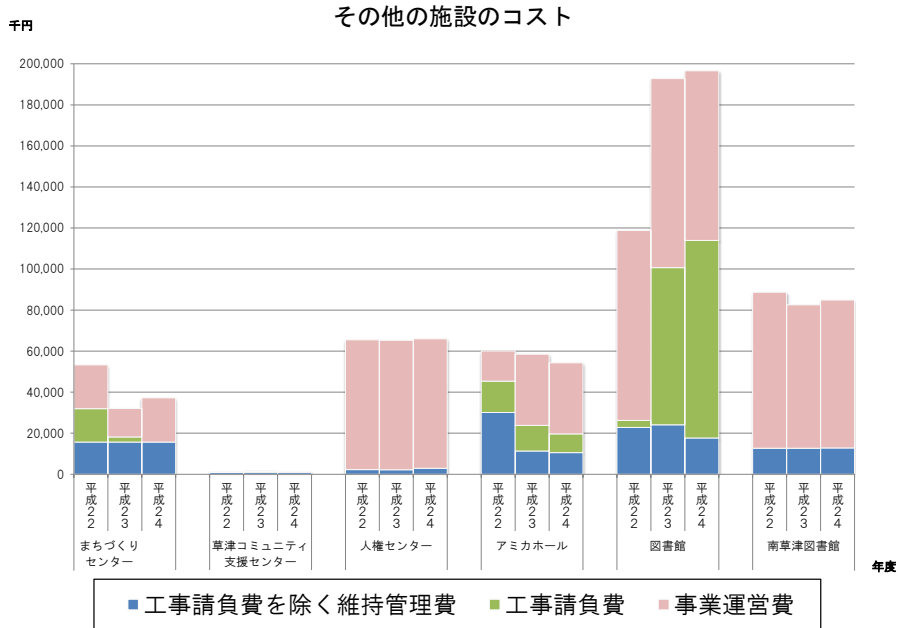
平成 23 年度に工事請負費として約 7,700 万円、平成 24 年度に約 9,600 万円を計上していますが、平成 22 年度からの工事請負費を除くコストは、平成 22 年度の約 1 億 1,500 万円から平成 24 年度には約 1 億円と約 1,500 万円低下しています。

単位面積当たりのコストは、平成 23 年度までは 4 万円/m²を超えていましたが、平成 24 年度には、約 3.6 万円/m²に低下しています。人員数は 19 人のまま変わっていません。

<南草津図書館>

維持管理費は約 1,270 万円前後で推移していますが、事業運営費が変動しており、平成 24 年度で約 8,500 万円となっています。

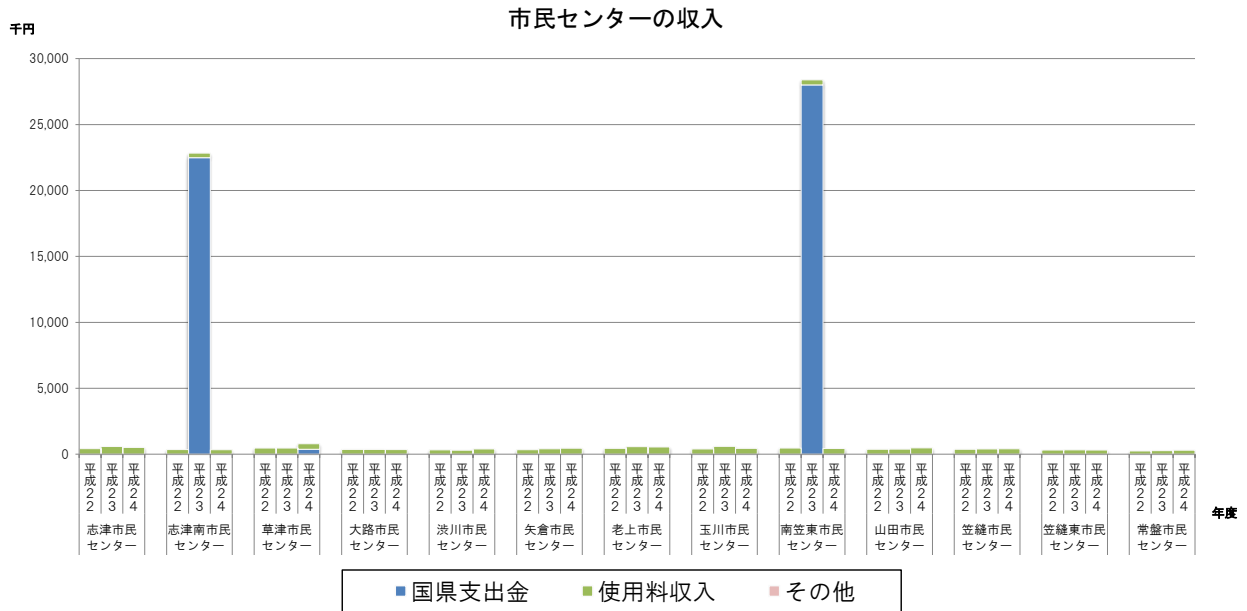
単位面積当たりのコストは、9 万円/m²前後で推移しています。



(3) 施設の収入状況

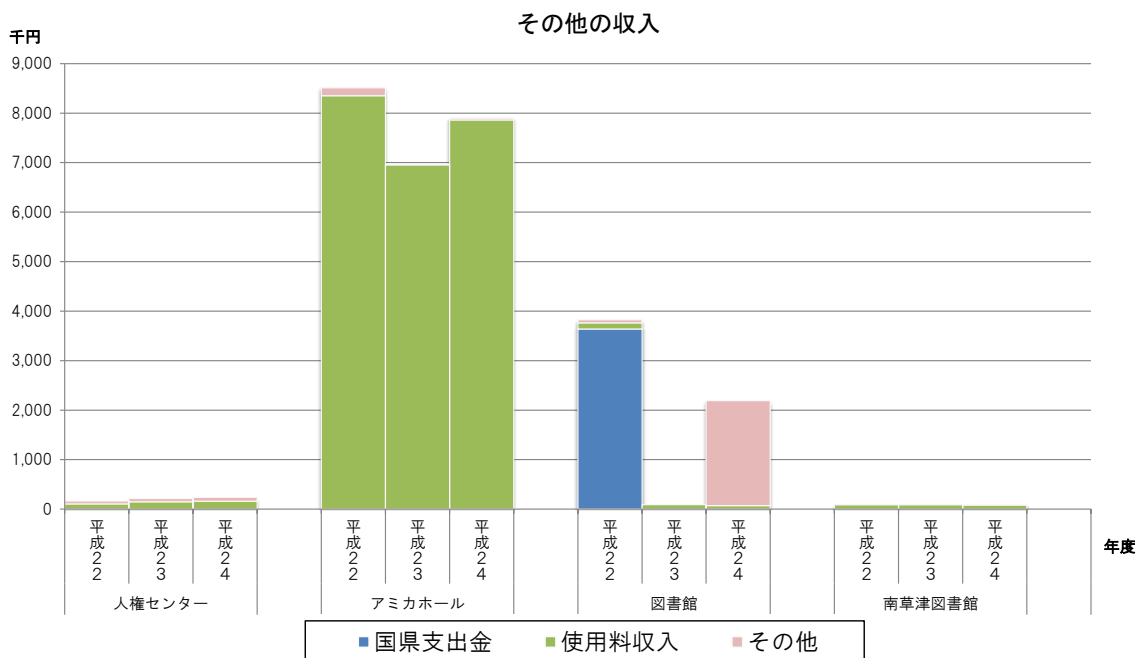
a) 市民センター

市民センターの収入は、平成23年度の志津南、南笠東市民センターで国県支出金があり高くなっていますが、それ以外の年度と施設では、すべて40万円前後となっています。



b) その他の施設

収入がある施設は、人権センター、草津アミカホール、図書館、南草津図書館です。草津アミカホールでは使用料による収入が他の施設と比べて高く、700～800万円で推移しています。



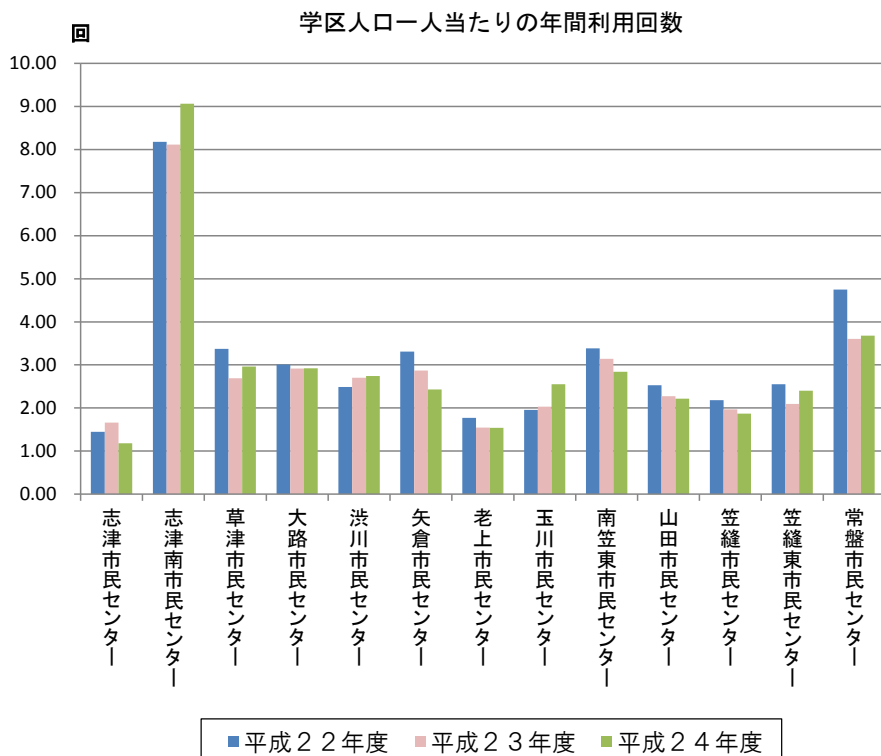
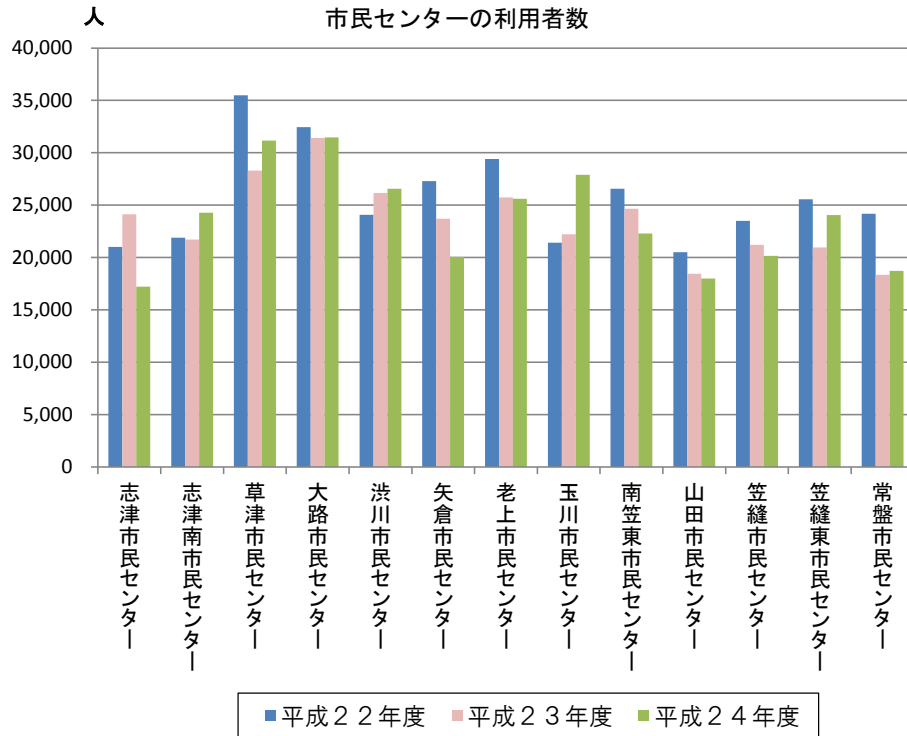
(4) 施設の利用状況

①利用者数

a) 市民センター

市民センターの利用者数は、各施設で年間 17,000 人から 35,000 人となっています。平成 22 年度から 24 年度をみると、渋川・玉川市民センターは年々増加していますが、矢倉・老上・南笠東・山田・笠縫市民センターは年々減少しています。

学区人口一人当たりの年間利用回数は、2~3 回の所が大半ですが、志津南市民センターは 8 回以上と、他の市民センターに比べ、多くの市民に利用されています。



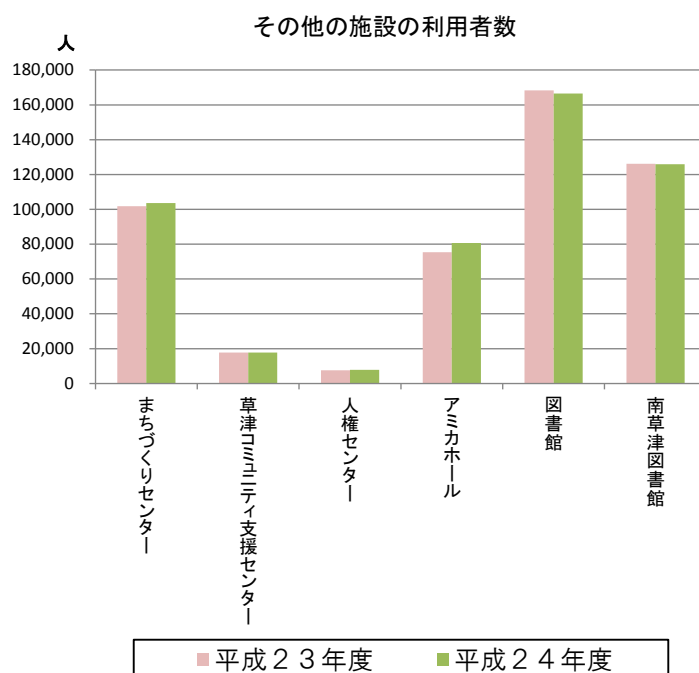
b) その他の施設

市民センター以外の生涯学習施設の利用者数をみると、まちづくりセンターの利用者数は、年間10万人程度で推移しています。

草津コミュニティ支援センターは約18,000人、人権センターは約7,500人で推移しています。

また、図書館の利用者数は、年間16万人程度、南草津図書館の利用者数は、12万人程度で推移しています。

草津アミカホールについて、平成22年度は統計をとっていませんが、平成23年度の約7万5千人から平成24年度の約8万人と、1年間で5千人利用者が増えています。



②部屋別利用状況

a) 市民センター

市民センターには、主に和室・研修室・会議室・調理室・サロンがあります。他に、図書室や多目的室のある市民センターもあります。

学区	施設名称	和室	研修室	研修室(3階)	大会議室	中会議室	小会議室	小会議室2	調理室	図書室	サロン	多目的室	地域活動室	その他
志津	志津市民センター	●			●		●		●	●				●
志津南	志津南市民センター	●			●				●		●	●	●	
草津	草津市民センター	●	●		●				●		●		●	
大路	大路市民センター	●	●	●	●				●		●		●	
洪川	洪川市民センター	●			●		●	●	●					
矢倉	矢倉市民センター	●	●		●		●		●		●			
老上	老上市民センター	●	●		●				●	●	●			
玉川	玉川市民センター	●	●		●		●		●	●	●			
南笠東	南笠東市民センター	●	●		●	●			●		●	●	●	●
山田	山田市民センター	●	●		●		●		●		●			
笠縫	笠縫市民センター	●	●		●		●		●		●			
笠縫東	笠縫東市民センター	●	●		●		●		●		●			
常盤	常盤市民センター	●			●		●		●	●	●			●

※常盤市民センターの大会議室は部屋の名称としては研修室としています。

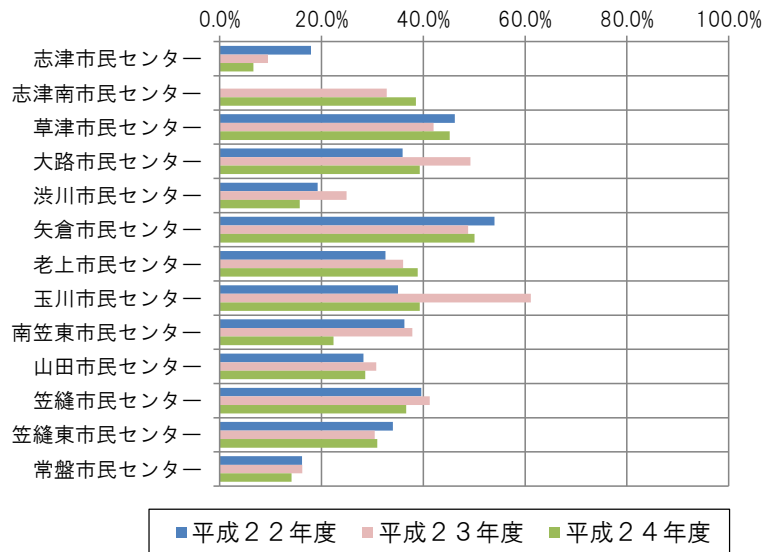
次に、多くの市民センターにある和室、研修室、大会議室、小会議室、調理室の利用状況は次のとおりです。

<和室>

和室の利用状況は、草津・大
路・矢倉・玉川・笠縫市民センタ
ーで高く、志津・渋川・常盤市民
センターでは、低くなっています。

志津南市民センターについて、
平成 22 年度は統計をとっていま
せん。

市民センター 和室 施設別年間利用状況



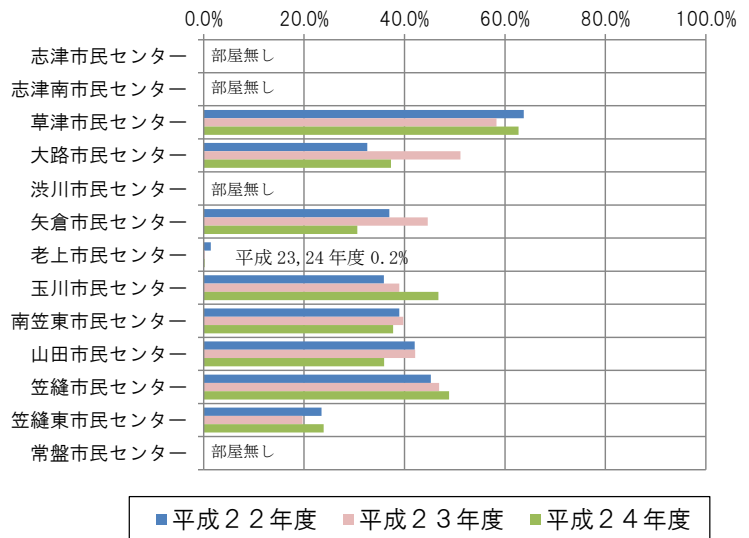
<研修室>

研修室の利用状況は、平成 24
年度の草津・玉川・笠縫市民セン
ターで高く、草津市民センターで
は 60%以上となっています。

また、笠縫東市民センターは低
くなっています。

なお、常盤市民センターの研修
室は、大会議室としての機能を持
っているため次の大会議室の項目
に記載しています

市民センター 研修室 施設別年間利用状況



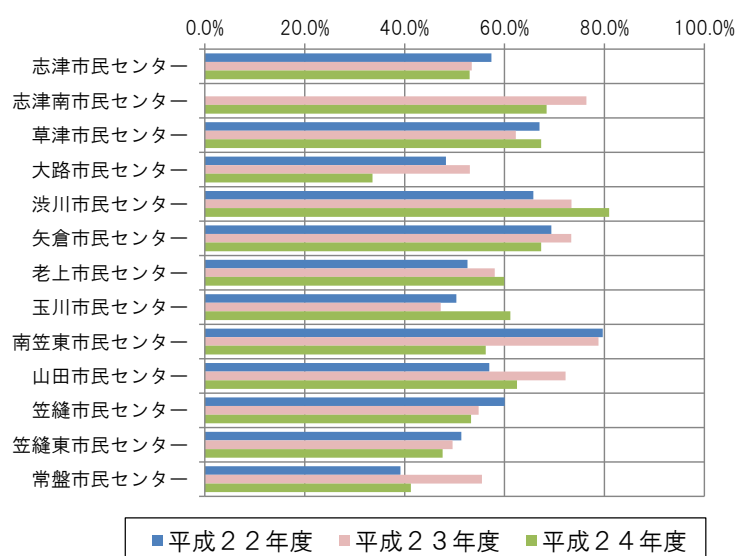
<大会議室>

大会議室の利用状況は、平成
24 年度の志津南・草津・渋川・
矢倉・玉川・山田市民センターで
60%以上と高くなっています。

また、大路・南笠東市民センタ
ーでは、平成 24 年度の利用率が
大きく減少しています。

志津南市民センターについて、
平成 22 年度は統計をとっていま
せん。

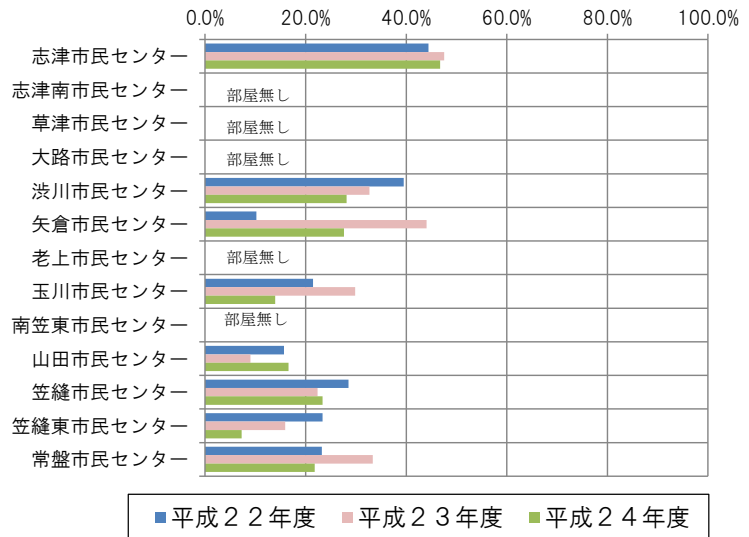
市民センター 大会議室 施設別年間利用状況



<小会議室>

小会議室の利用状況は、志津市民センターで高い傾向にあり、それ以外は平成 24 年度で 30%を下回っています。特に、笠縫東市民センターは、平成 22 年度から 24 年度にかけて減少が続き、平成 24 年度には 7%程度となっています。

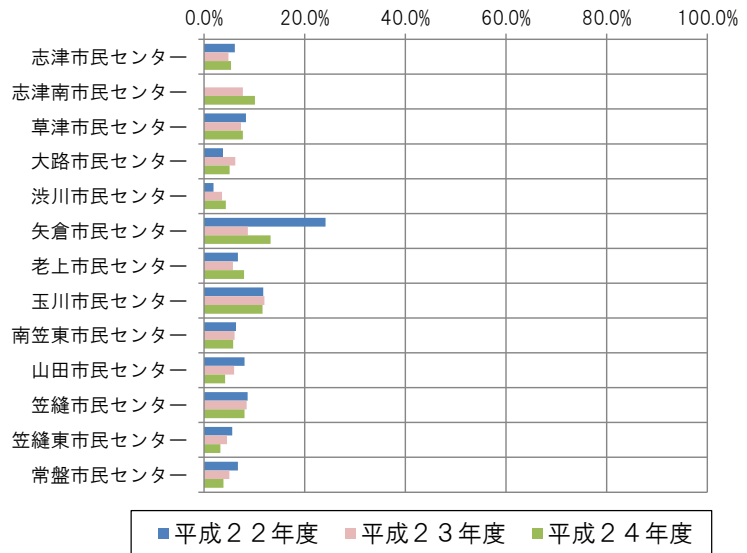
市民センター 小会議室 施設別年間利用状況



<調理室>

調理室の利用状況は、平成 22 年度に矢倉市民センターで 20%を超えていましたが、その後減少し、すべての施設で 15%を下回りました。また、比較的利用率が高い矢倉・玉川市民センターを除いては、7%前後の利用状況となっています。

市民センター 調理室 施設別年間利用状況



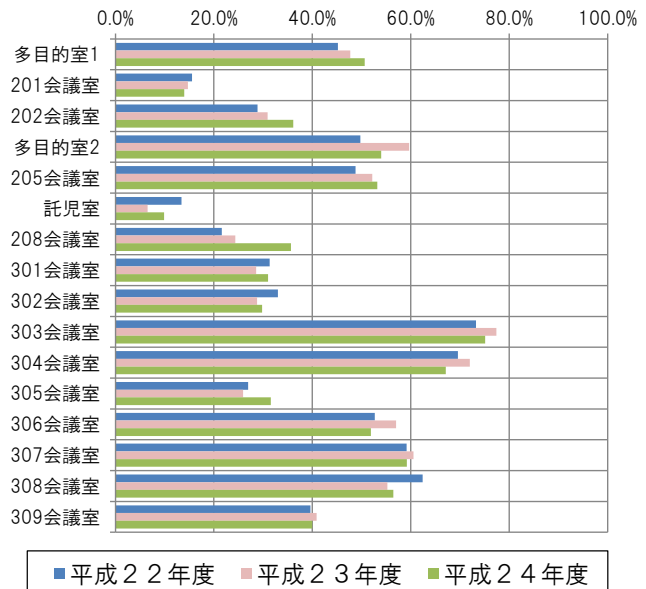
志津南市民センターについて、平成 22 年度は統計をとっていません。

b) その他の施設

<まちづくりセンター>

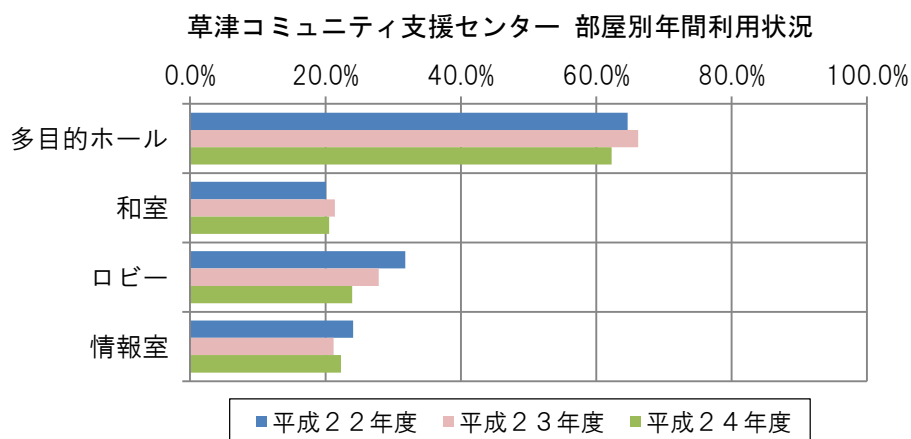
まちづくりセンターの利用状況は、利用率が高い部屋と低い部屋があります。303、304 会議室は 70%を超えています。201 会議室は 20%を下回っています。また、託児室は、7~15%の利用状況となっています。

まちづくりセンター 部屋別年間利用状況



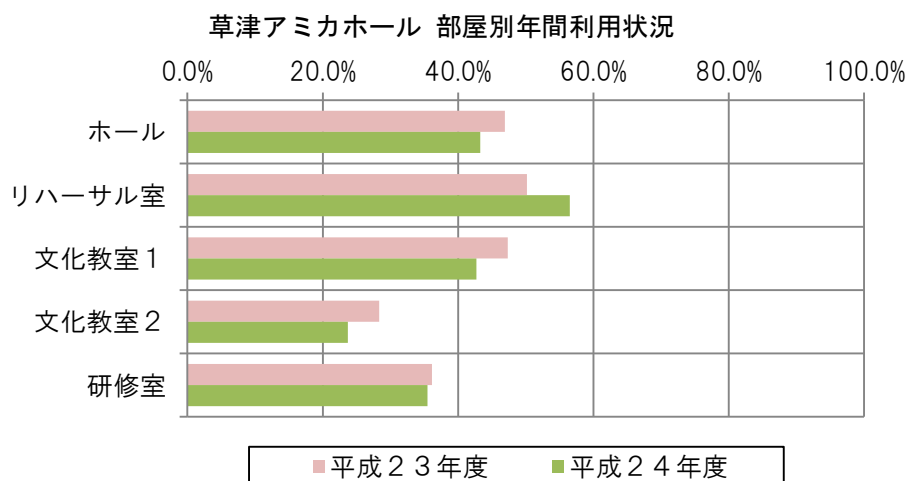
<草津コミュニティ支援センター>

草津コミュニティ支援センターの利用状況は、多目的ホールが高く 65%程度で推移しています。和室・ロビー・情報室は、20～35%程度で推移しており、ロビーの利用状況は減少傾向にあります。



<草津アマカホール>

草津アマカホールの利用状況は、ホール、リハーサル室、文化教室 1 で 40%を超えています。



(5) 施設の現状と問題点

【市民センター】

市民センターは、大規模な修繕・更新が必要となる築 30 年以上のものが約半数近くを占めており、25 年以上の施設を加えると約 7 割となります。現在、一部の市民センターについては、改築が計画されていますが、今後、施設全体の長寿命化の方策や建物更新についての検討が必要です。

利用状況では、人口一人当たりの利用率にばらつきがあることから、利用率向上対策が必要です。また、すべての市民センターで調理室の利用率が低いことや、地域により部屋別利用にばらつきがみられることから、社会や時代の変化に応じた施設機能の転換や利用率向上対策など、市民が利用しやすい施設への改善やサービス充実などの検討が必要です。

【その他の施設】

その他の施設は、築 20 年以下の建物が約半数ですが、築 30 年を超える施設について、まちづくりセンター、人権センターおよび行政施設である合同ビルは複合施設へ移転される予定です。また、規模が大きい施設が多いことから、施設維持管理のあり方についての検討も必要です。

コスト面では、単位面積当たりのコストで人権センターや南草津図書館が高くなっていますが、これは事業運営費によるものが多いことから、これらの改善策の検討が必要です。また、草津アミカホールの使用料収入は年度によりばらつきがあります。なお、平成 26 年度から、利用料金制に移行しています。

利用状況では、利用者数が草津アミカホールのように増加している施設もあることから、各施設とも利用者向上対策や機能の転換など、市民が利用しやすい施設への改善やサービス充実などの検討が必要です。

3-4. 福祉施設

(1) 施設の整備状況

①施設の概要

福祉施設として、隣保館5施設（分館を含む）、障害者福祉センター、さわやか保健センター、なごみの郷、長寿の郷ロクハ荘、発達支援センター、保育所6施設、児童育成クラブ13施設が整備されています。

用途	整理番号	施設名称	施設概要						建物状況				管理状況
			所在地	学区	建築年度 (開設年度)	構造	階数	延床面積	避難所 指定	耐震性		バリアフリー 対応	
										診断	改修		
隣保館	1	西一会館	草津町1446-1	草津	平成19年度	S	2	942㎡	○	不要	不要	済	直営
	2	新田会館	木川町898-3	山田	平成17年度	S	2	1,036㎡	○	不要	不要	済	直営
	3	新田会館分館	木川町900-1	山田	昭和48年度 (昭和57年度)	RC	1	232㎡	○	済	不要	一部済	直営
	4	橋岡会館	橋岡町71	老上	平成18年度	S	2	970㎡	○	不要	不要	済	直営
	5	常盤東総合センター	芦浦町319-1	常盤	別館 昭和55年度	S	2	988㎡	○	本館不要 別館 未	本館不要 別館 未	本館済 別館一部済	直営
支援施設	6	障害者福祉センター	西洪川二丁目9-38	洪川	平成18年度	S	3(2)	1,577㎡	○	不要	不要	済	指定管理
	7	さわやか保健センター	草津三丁目13-30	草津	平成3年度	RC	3	2,587㎡	-	不要	不要	一部済	直営
	8	なごみの郷	志那町2552	常盤	平成12年度	S	2	2,467㎡	○	不要	不要	済	指定管理
	9	長寿の郷ロクハ荘	追分七丁目11-1	志津	昭和54年度	S	2	1,737㎡	○	済	済	済	指定管理
	10	発達支援センター	西洪川二丁目9-38	洪川	平成18年度	S	3(3)	1,130㎡	○	不要	不要	済	直営
保育所	11	草津保育所	草津三丁目13-10	草津	平成2年度	RC	2	1,014㎡	○	不要	不要	一部済	直営
	12	草津第二保育所	草津町1350	草津	昭和48年度	S	1	1,266㎡	○	済	未	一部済	直営
	13	第三保育所	橋岡町202	老上	昭和49年度	S	1	1,000㎡	○	済	未	一部済	直営
	14	第四保育所	芦浦町310-1	常盤	昭和50年度	S	1	583㎡	○	済	未	未	直営
	15	第五保育所	矢橋町888-1	老上	平成25年度	S	1	1,336㎡	○	不要	不要	一部済	直営
	16	第六保育所	大路二丁目11-35	大路	昭和54年度	RC	2	937㎡	○	済	済	一部済	直営
児童育成クラブ	17	のびっ子志津	青地町827-3	志津	平成12年度	S	1	362㎡	-	不要	不要	済	指定管理
	18	のびっ子志津南	若草二丁目16-2	志津南	平成21年度	S	1	198㎡	-	不要	不要	済	指定管理
	19	のびっ子草津	草津三丁目14-5	草津	平成9年度	S	1	182㎡	-	不要	不要	済	指定管理
	20	のびっ子大路	大路二丁目9-11	大路	平成20年度	S	3(3)	189㎡	-	不要	不要	済	指定管理
	21	のびっ子洪川	西洪川二丁目9-38	洪川	平成18年度	S	3(1)	203㎡	-	不要	不要	済	指定管理
	22	のびっ子矢倉	矢倉二丁目5-50	矢倉	平成16年度	S	1	231㎡	-	不要	不要	済	指定管理
	23	のびっ子老上	野路町517	老上	平成22年度	S	2	253㎡	-	不要	不要	済	指定管理
	24	のびっ子玉川	野路九丁目6-12	玉川	平成19年度	S	1	200㎡	-	不要	不要	済	指定管理
	25	のびっ子南笠東	南笠東四丁目4-1	南笠東	平成13年度	S	1	139㎡	-	不要	不要	済	指定管理
	26	のびっ子山田	北山田町350	山田	昭和53年度 (平成11年度)	RC	3(1)	202㎡	-	済	済	済	指定管理
	27	のびっ子笠縫	上笠一丁目6-2	笠縫	平成14年度	S	1	146㎡	-	不要	不要	済	指定管理
	28	のびっ子笠縫東	平井三丁目8-1	笠縫東	平成14年度	S	1	204㎡	-	不要	不要	済	指定管理
	29	のびっ子常盤	志那中町119	常盤	昭和53年度 (平成10年度)	RC	3(1)	138㎡	-	済	済	済	指定管理

* 建築年度…主要な棟のうち最も古い棟の年度

* 階数の()…所在階数

* 避難所…なごみの郷、長寿の郷ロクハ荘は福祉避難所

【隣保館】

隣保館は、地域社会全体の中で、福祉の向上や、人権啓発の住民交流の拠点となる開かれたコミュニティセンターとして設置された施設であり、現在は、平成18年度から21年度にかけて改修整備した西一、新田、橋岡会館、常盤東総合センターの4施設と新田会館分館1施設が整備されています。構造は新田会館分館が鉄筋コンクリート造であり、その他の施設は鉄骨造です。耐震化については、常盤東総合センター別館を除いて新耐震基準に適合しています。バリアフリー対応は、西一会館、新田会館、橋岡会館、常盤東総合センター本館で実施済みであり、新田会館分館は一部実施済みです。管理は直営で行われています。

【支援施設】

障害者福祉センターは、地域における障害者の福祉増進を図るための施設です。構造は鉄骨造であり、新耐震基準に適合しています。バリアフリー対応は実施済みであり、管理は指定管理者制度が導入されています。

さわやか保健センターは、市民の健康の保持および増進を図るための施設です。構造は鉄筋コンクリート造であり、新耐震基準に適合しています。バリアフリー対応は一部実施済みであり、管理は直営で行われています。

なごみの郷は、市民相互の交流を促進し市民の生活文化の向上と福祉の増進を図る施設です。構造は鉄骨造であり、新耐震基準に適合しています。バリアフリー対応は実施済みであり、管理は指定管理者制度が導入されています。

長寿の郷ロクハ荘は、高齢者に健康で明るい生活を営んでもらうための交流の場、教養の向上、レクリエーションの場を総合的に提供する施設であり、大広間や温浴施設等を備えています。構造は鉄骨造で、耐震化は実施済みです。バリアフリー対応は実施済みであり、管理は指定管理者制度が導入されています。

発達支援センターは、障害児および障害の疑いのある児童に対し、乳幼児期から成人期を通して自立と社会参加を行うための相談や支援を行うことで、障害児等の福祉向上を図る施設です。構造は鉄骨造であり、新耐震基準に適合しています。バリアフリー対応は実施済みであり、管理は直営で行われています。

【保育所】

保育所は、保育に欠ける乳児または幼児を保育する施設であり、草津、草津第二、第三、第四、第五、第六保育所の6施設が整備されています。構造は草津、第六保育所は鉄筋コンクリート造であり、その他の施設は鉄骨造です。耐震化は草津、第五保育所は新耐震基準に適合しています。第六保育所の耐震化は実施済みであり、草津第二、第三、第四保育所に関しては順次耐震化を進めています。バリアフリー対応は、第五保育所で実施済みであり、その他の施設は一部実施済みです。管理は直営で行われています。

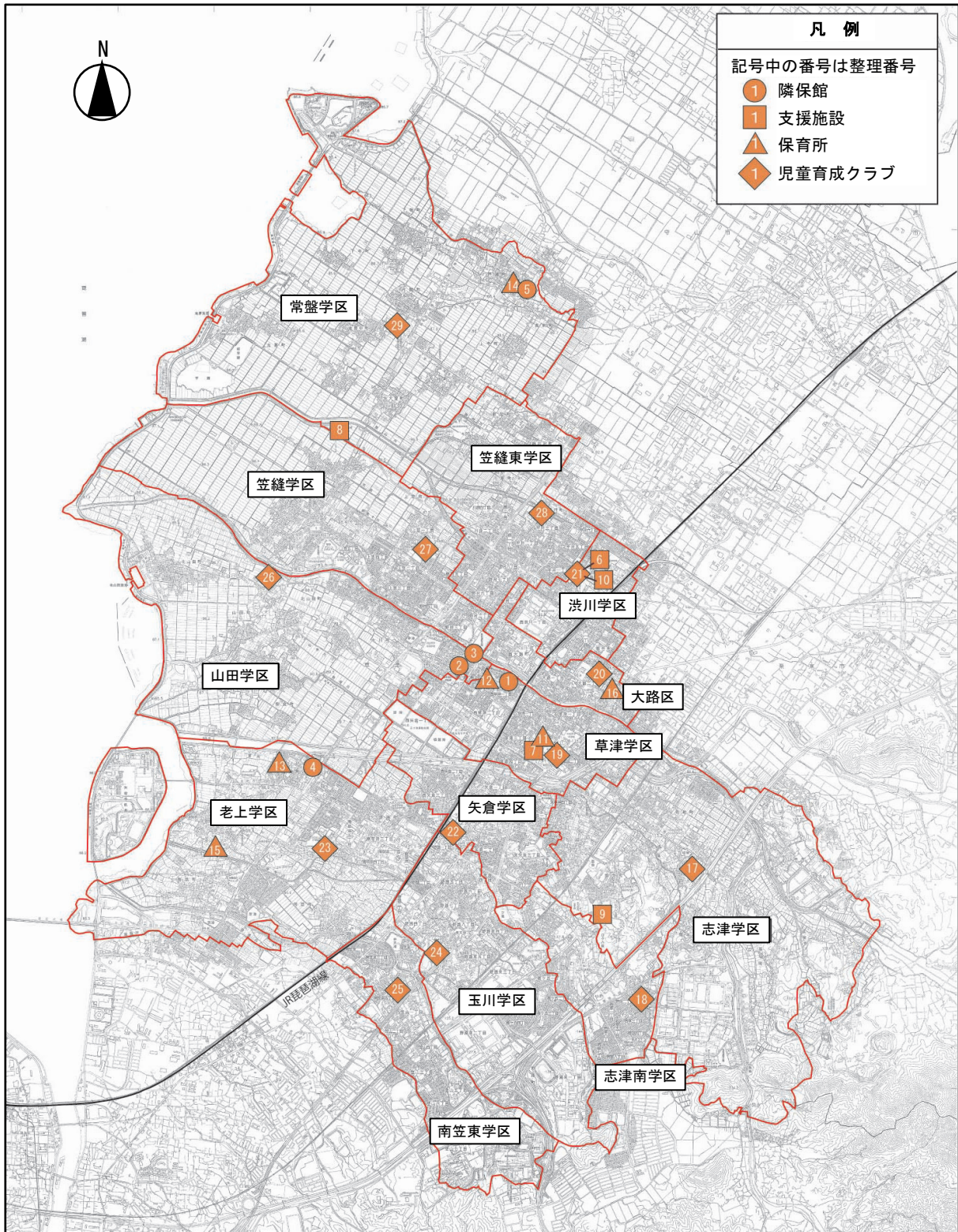
【児童育成クラブ】

児童育成クラブは、小学校低学年児童を対象に、授業の終了した放課後および学校休業日に、家庭に代わる生活の場を確保し、その児童の健全な育成を図ることを目的とした施設であり、のびっ子志津、志津南、草津、大路、渋川、矢倉、老上、玉川、南笠東、山田、笠縫、笠縫東、常盤の 13 施設が整備されています。そのうち、のびっ子山田、常盤は、それぞれ山田小学校、常盤小学校の空き教室を利用しています。また、のびっ子笠縫東については、専用施設の他に、一部笠縫東小学校の空き教室を利用しています。構造はのびっ子山田、常盤は鉄筋コンクリート造であり、その他の施設は鉄骨造です。のびっ子山田、常盤は耐震化済みであり、その他の施設は新耐震基準に適合しています。バリアフリー対応は、すべての施設で実施済みです。管理は指定管理者制度が導入されています。

②施設の配置状況

児童育成クラブ「のびっ子」は各学区に配置されていますが、保育所は4つの学区に分布しています。また、玉川・南笠東学区の南側および笠縫・山田学区の西側には配置されていません。

■福祉施設配置状況図

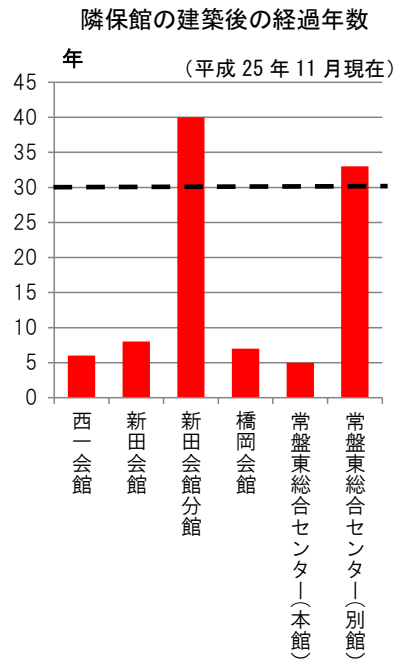


平成 26 年 4 月現在

③建築後の経過年数

a) 隣保館

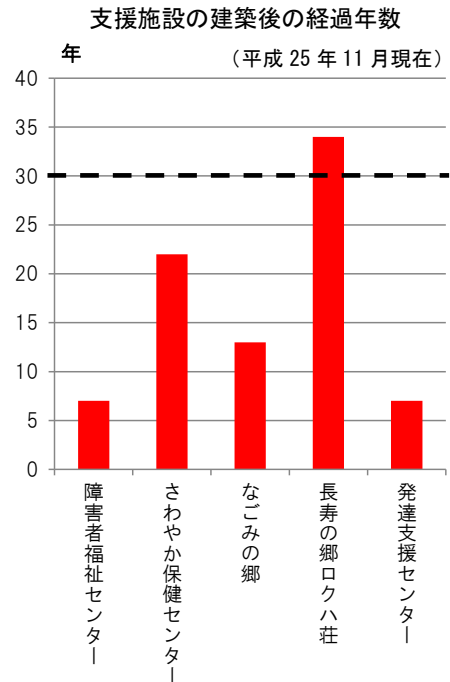
隣保館は、平成 17 年度以降に順次建替えられており、建築後の経過年数は 5 年程度となっています。新田会館分館は建築から 35 年以上、常盤東総合センター敷地内の別館は、大規模な修繕・更新が必要となる築 30 年以上経過しています。



b) 支援施設

支援施設の建築後の経過年数は、長寿の郷ロクハ荘で 34 年、さわやか保健センターが 22 年、なごみの郷が 13 年、障害者福祉センター・発達支援センターが設けられている渋川福複センターが 7 年となっています。

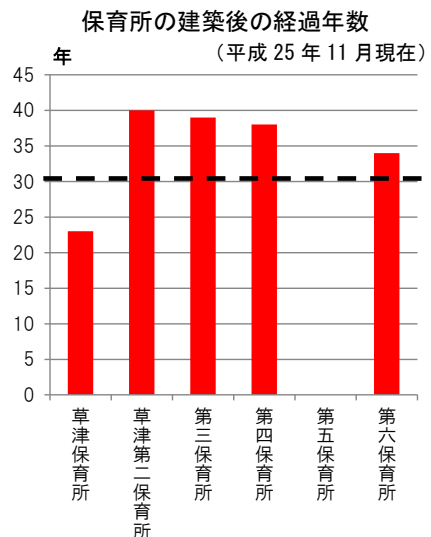
なお、発達支援センターは、平成 24 年に発達障害者支援センターから名称変更しています。



c) 保育所

保育所の建築後の経過年数は、草津保育所で 22 年ですが、他の 4 つの施設は、30 年以上経過しています。

第五保育所は平成 25 年度に建替えられました。

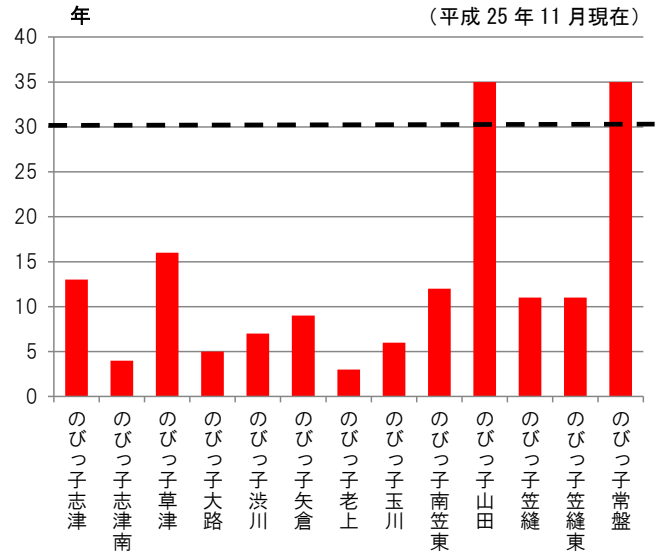


d) 児童育成クラブ

児童育成クラブの建築後の経過年数は、のびっ子草津が15年以上、のびっ子志津・南笠東・笠縫・笠縫東が10年以上、他の6施設ののびっ子は9年以下となっています。

のびっ子山田（平成11年度開設）と
のびっ子常盤（平成10年度開設）は、
昭和53年度に建築された学校の空き教室
を利用しており、35年経過しています。

児童育成クラブの建築後の経過年数

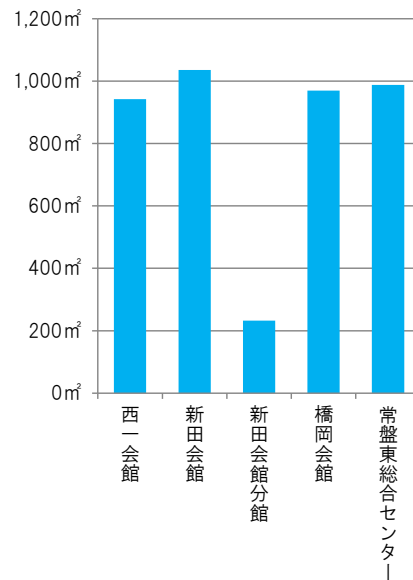


④延床面積

a) 隣保館

新田会館分館の延床面積は約 230 m² ですが、他の施設は 1,000 m²前後となっています。

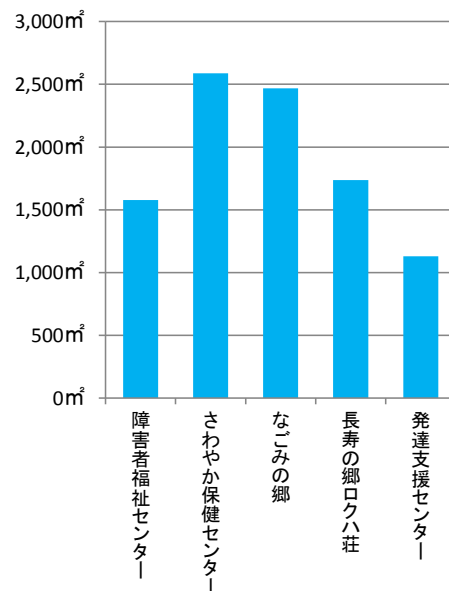
隣保館の延床面積



b) 支援施設

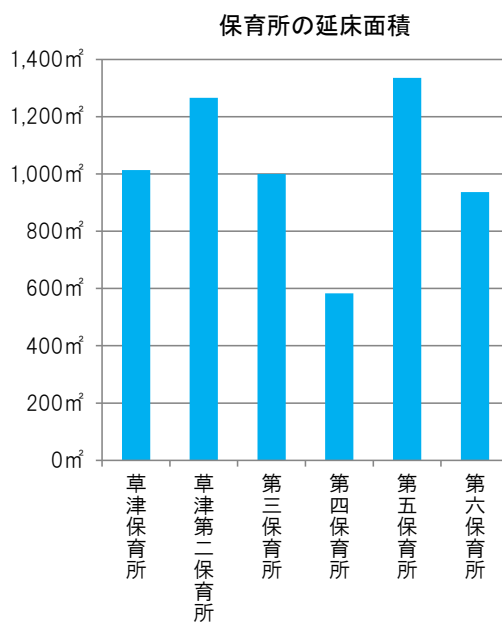
さわやか保健センターとなごみの郷の延床面積が約 2,500 m²、長寿の郷ロクハ荘が約 1,700 m²、障害者福祉センターが約 1,600 m²、発達支援センターが約 1,100 m² となっています。

支援施設の延床面積



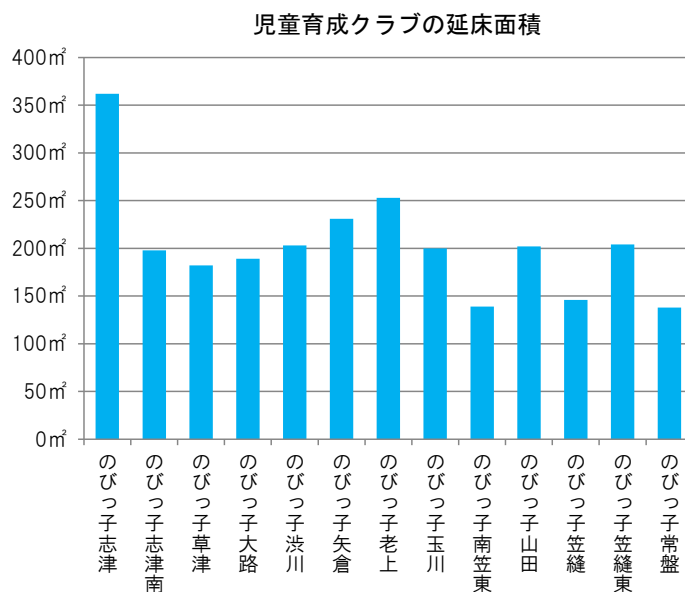
c) 保育所

保育所の延床面積は1,000 m²前後が大半であり、草津第二・第五保育所が約1,300 m²、草津・第三・第六保育所が約1,000 m²となっており、第四保育所は約600 m²となっています。



d) 児童育成クラブ

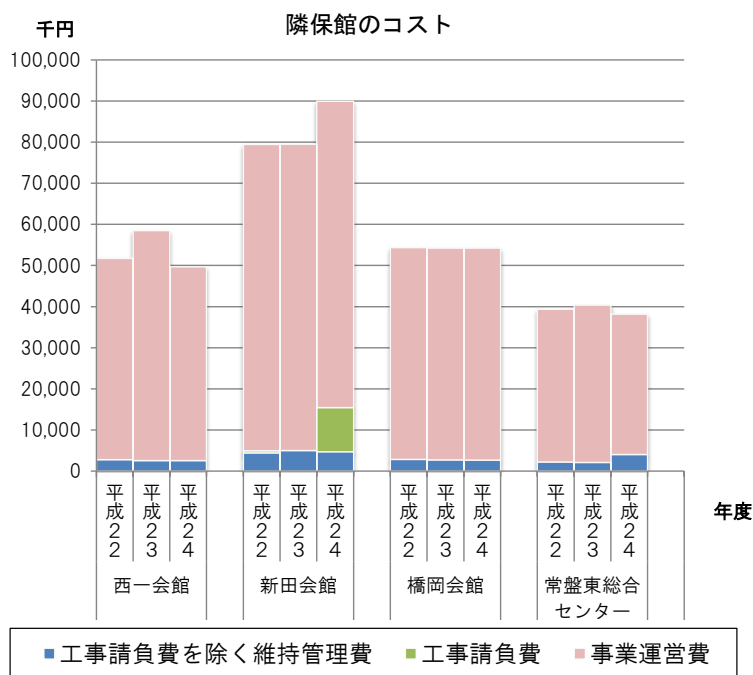
児童育成クラブの延床面積は、のびっ子志津が最も大きく300 m²を超えています。続いて、のびっ子老上が約250 m²、のびっ子矢倉が約230 m²あり、約200 m²の施設は、のびっ子志津南・大略・渋川・玉川・山田・笠縫東となっています。最も延床面積が少ないのは、のびっ子常盤で約140 m²となっています。



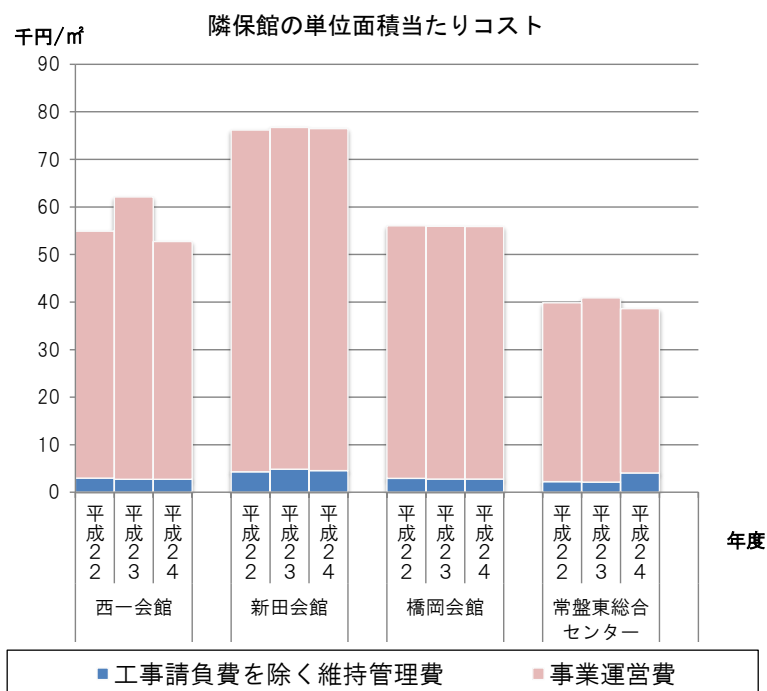
(2) 施設のコスト状況

a) 隣保館

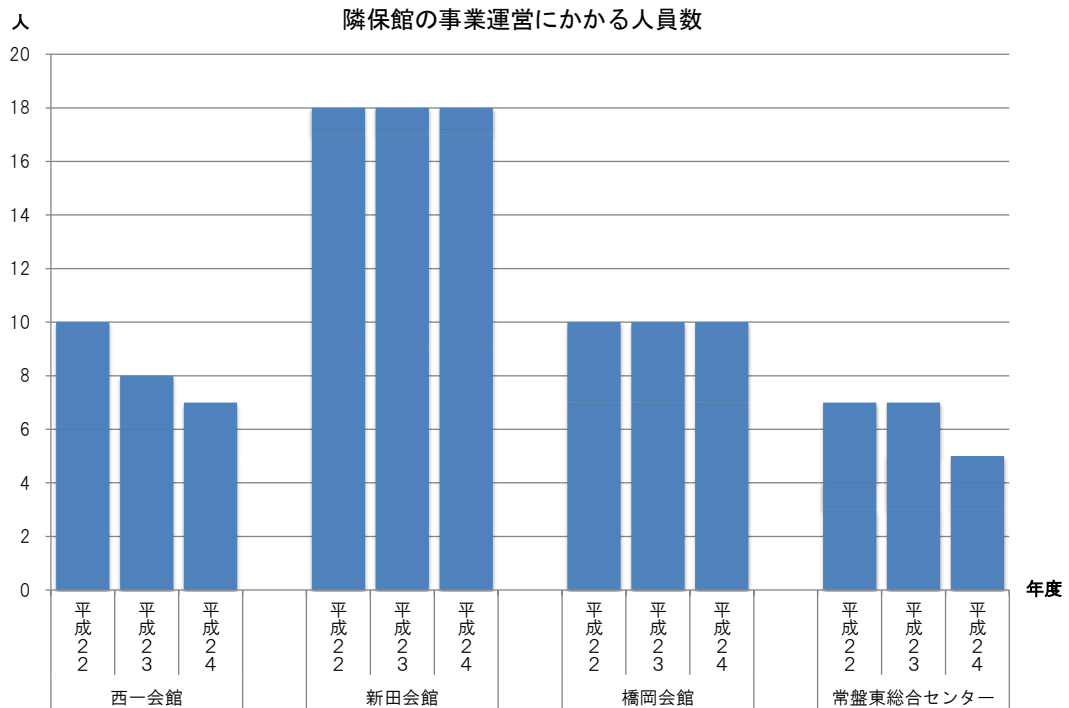
平成 24 年度に新田会館で約 1,100 万円の工事請負費の支出があったため伸びていますが、例年は新田会館で約 8,000 万円、西一会館で 5,000 万円、橋岡会館で 5,400 万円程度です。また、常盤東総合センターは約 4,000 万円で推移しています。なお、隣保館のコスト、人員数には、併設された教育集会所の光熱水費、人員数が含まれています。



単位面積当たりのコストは、新田会館が分館と合わせて約 7.7 万円/㎡、西一会館が約 5.3～6.2 万円/㎡、橋岡会館が約 5.6 万円/㎡、常盤東総合センターは約 4 万円/㎡となっています。

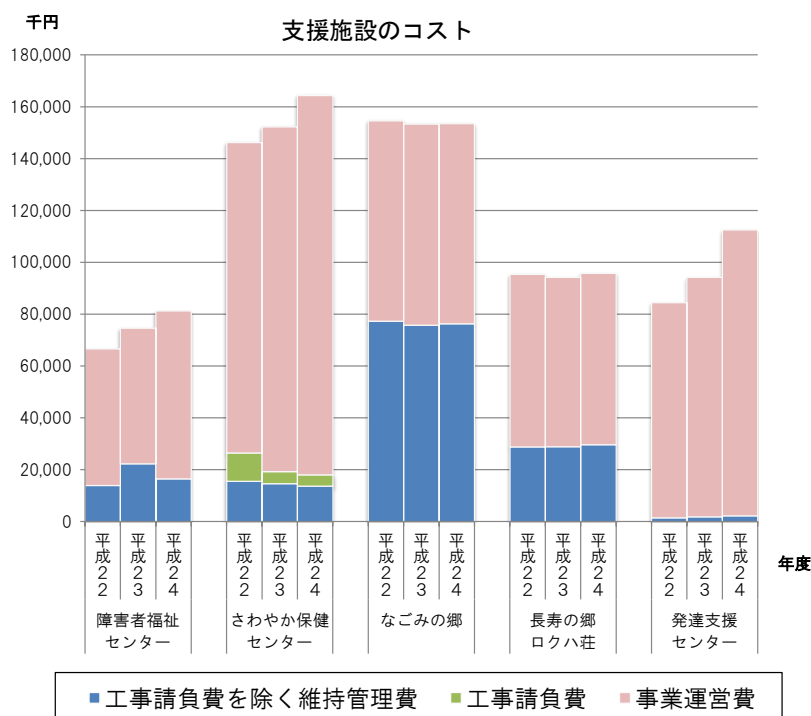


各施設の事業運営にかかる人員数は、新田会館が18人、橋岡会館が10人のまま変わっていません。西一会館と常盤東総合センターは減少しています。

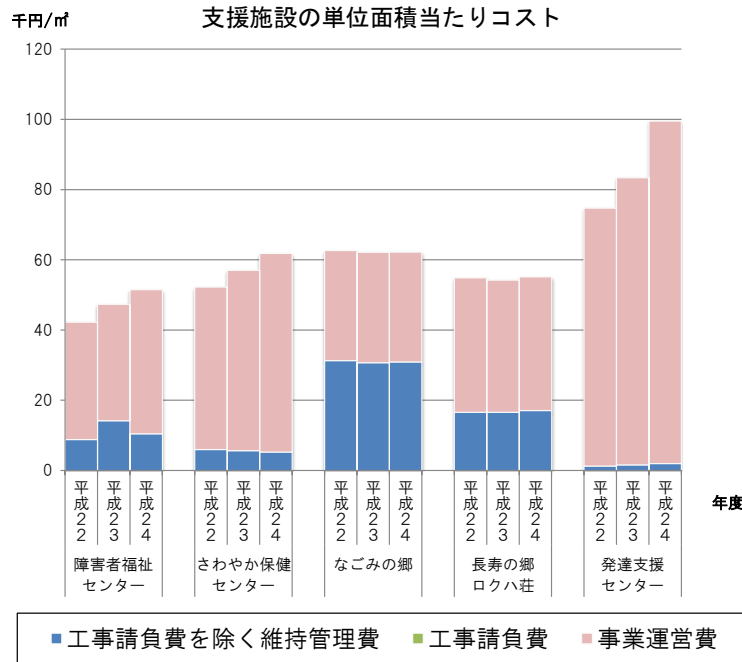


b) 支援施設

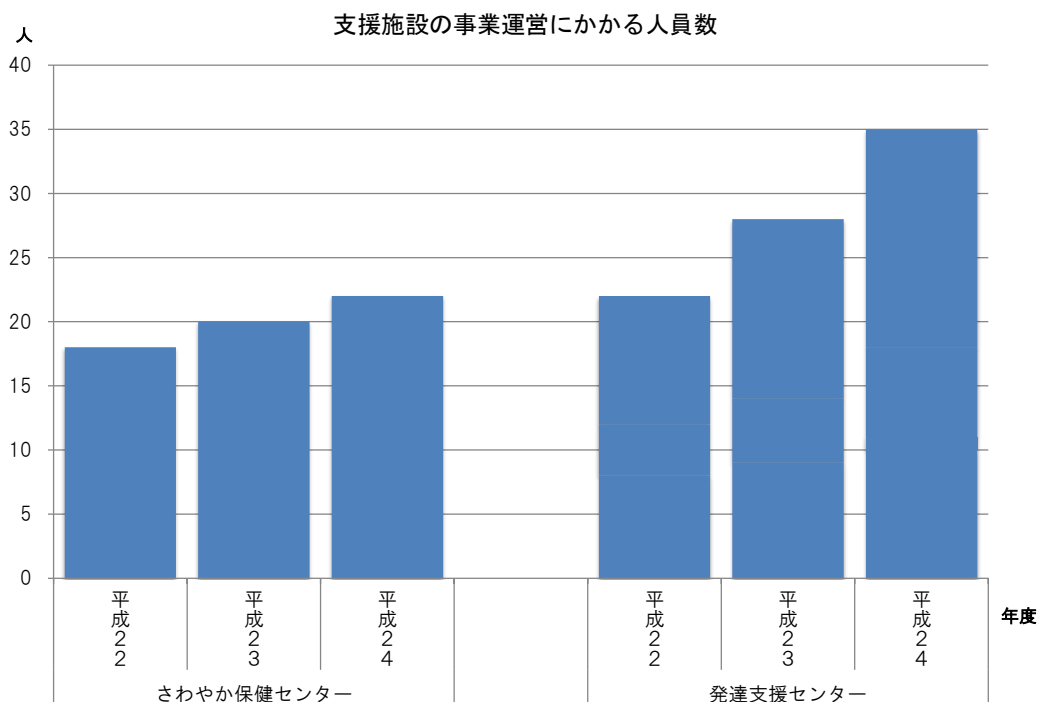
障害者福祉センターは平成22年度から増加しており、平成22年度約6,500万円から平成24年度約8,000万円と約1,500万円増加しています。さわやか保健センターでは平成22年度の約1.5億円から平成24年度は約1.6億円となっています。また、なごみの郷は約1.5億円、長寿の郷ロクハ荘は約9,500万円で推移しています。発達支援センターは、平成24年度の実績で約1.1億円となっています。



単位面積当たりのコストは、障害者福祉センターが、平成 22 年度の約 4.2 万円から平成 24 年度では約 5.1 万円に増加しました。さわやか保健センターも平成 22 年度の約 5.2 万円/㎡から平成 24 年度は約 6.2 万円/㎡となっています。また、なごみの郷は約 6.2 万円/㎡、長寿の郷ロクハ荘は約 5.5 万円/㎡で推移しています。発達支援センターは、平成 24 年度実績で約 9.9 万円/㎡となっています。

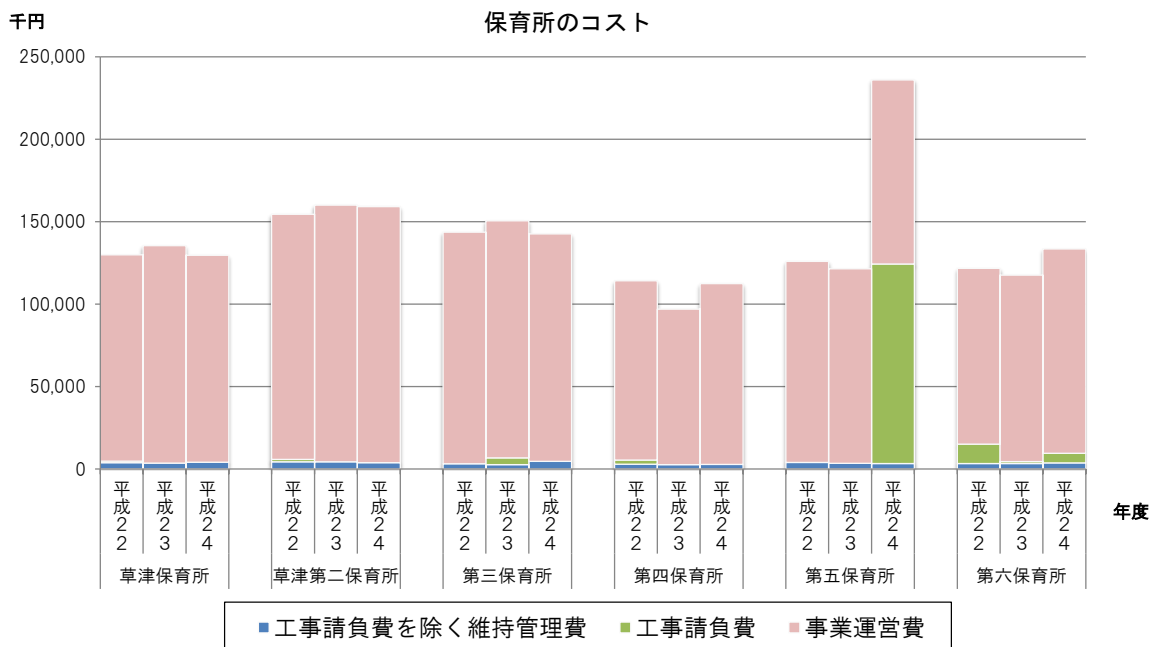


各施設の事業運営にかかる人員数は、さわやか保健センター、発達支援センターともに年々増加し、平成 24 年度では、さわやか保健センター 22 人、発達支援センター 35 人となっています。

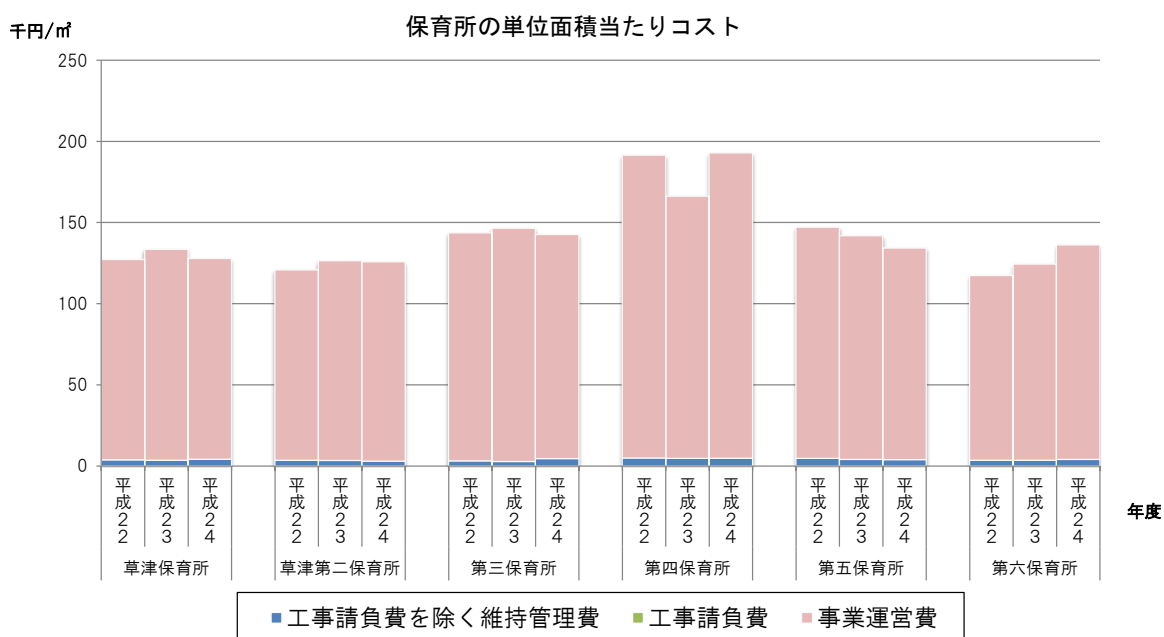


c) 保育所

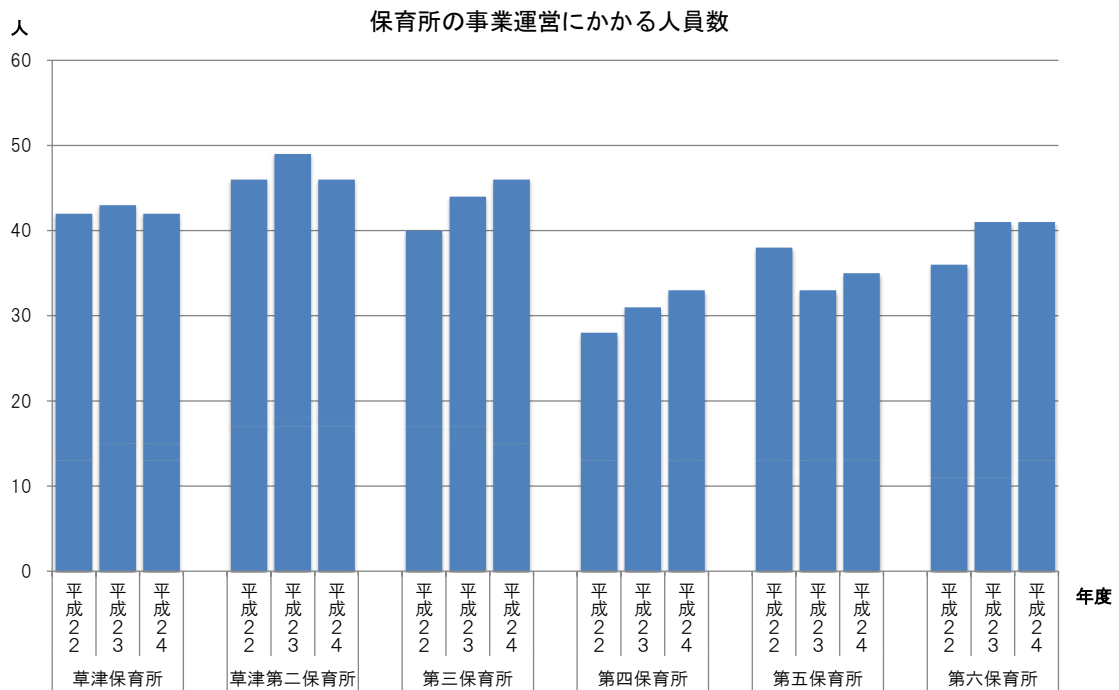
平成 24 年度に第五保育所で約 1.2 億円の工事請負費があったことから、同年度のコストが突出していますが、通常は、規模の一番大きい草津第二保育所が約 1.6 億円、規模の一番小さい第四保育所が約 1~1.1 億円で推移しています。



単位面積当たりコストは、一番高いのが第四保育所で約 16.6~19.3 万円/m²、一番低いのが草津第二保育所の約 12.5 万円/m²となっています。

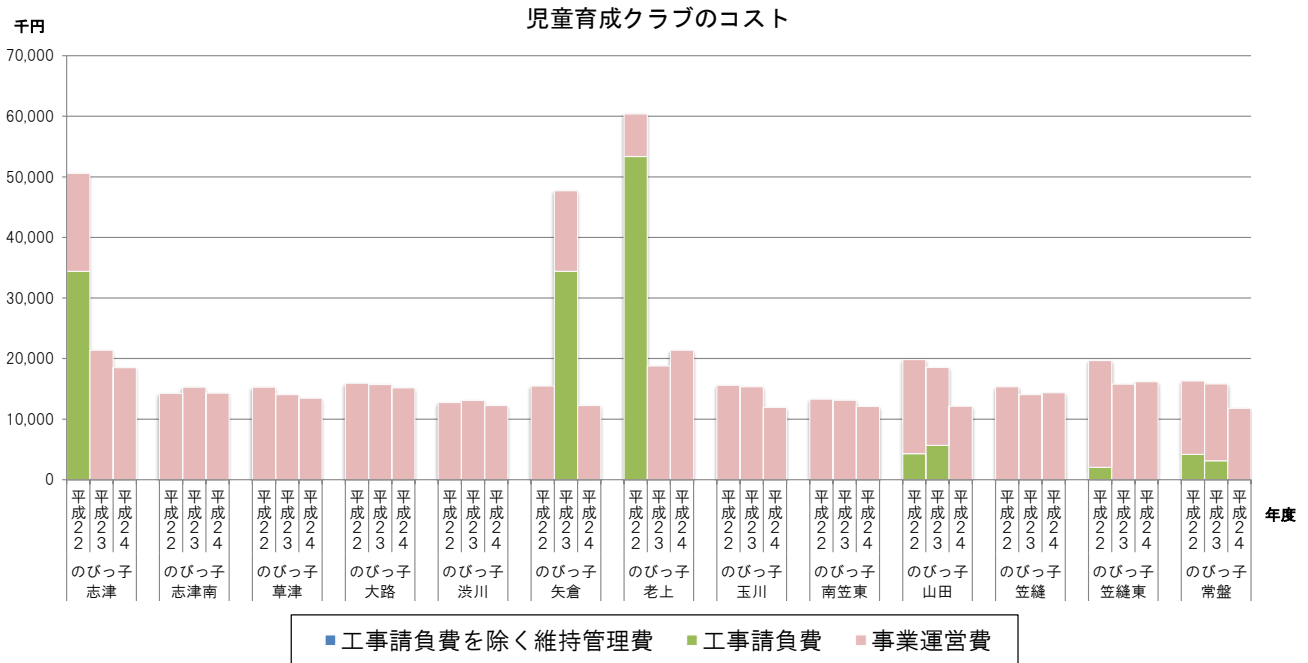


各施設の事業運営にかかる人員数は、草津第二保育所が 46 人と最も多くなっています。また、第三・第四保育所の人員が年々増加するなど、各保育所とも現状維持または増員しています。なお、各施設の人員数には、勤務時間の短い非常勤職員等も 1 人として計上しています。

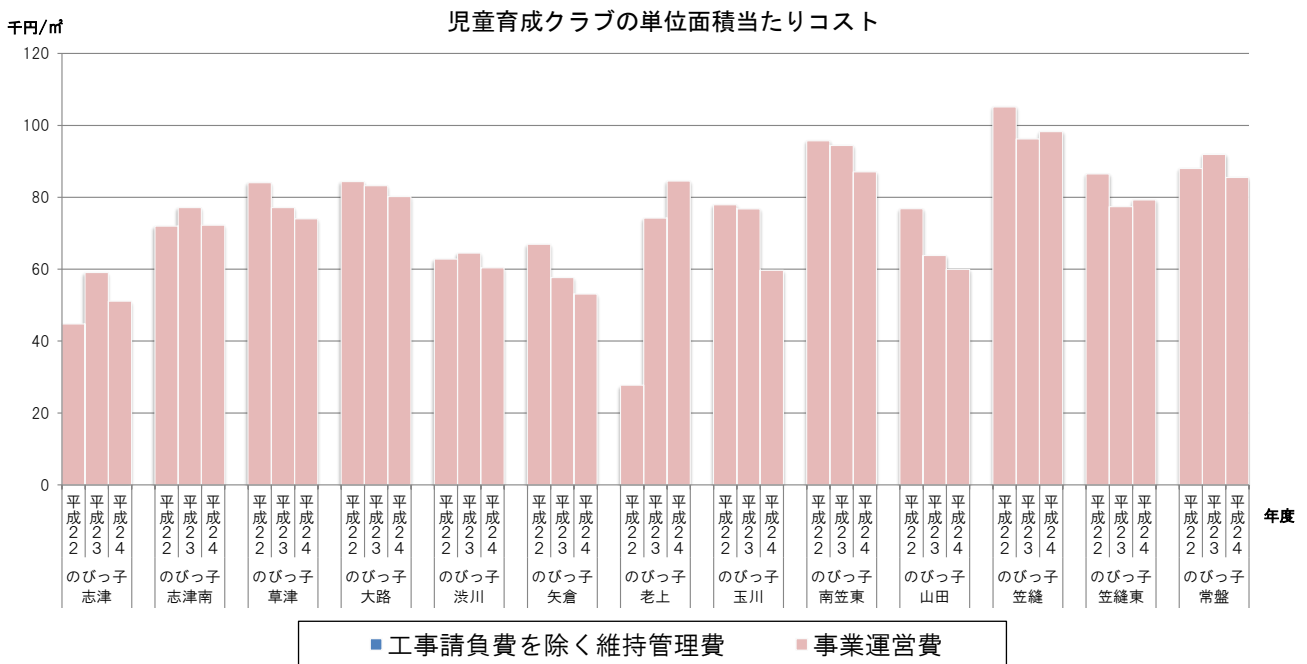


d) 児童育成クラブ

平成 22 年度にのびっ子志津とのびっ子老上、平成 23 年度にのびっ子矢倉で工事請負費が発生しています。事業運営費で高いのは、のびっ子志津とのびっ子老上の 2,100 万円となっています。また、のびっ子草津・大路・玉川・南笠東は事業運営費が減少しています。



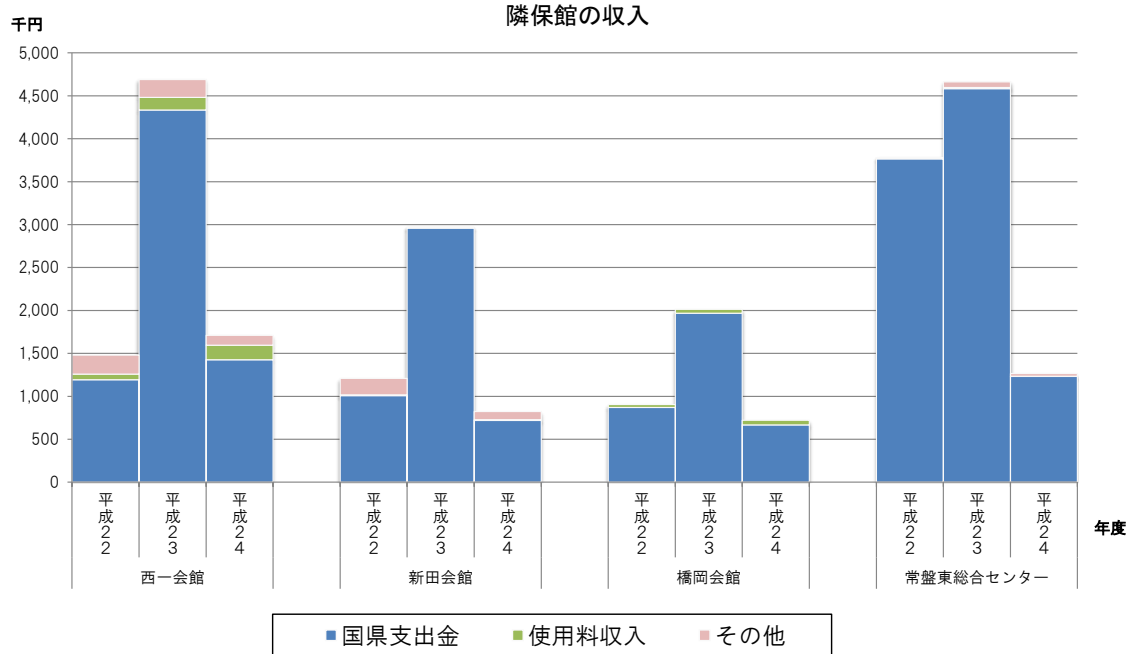
単位面積当たりのコストについて平成 24 年度でみると、のびっ子笠縫が約 10 万円/m²となっており、のびっ子志津、矢倉、玉川、山田は 6 万円/m²を下回っています。



(3) 施設の収入状況

a) 隣保館

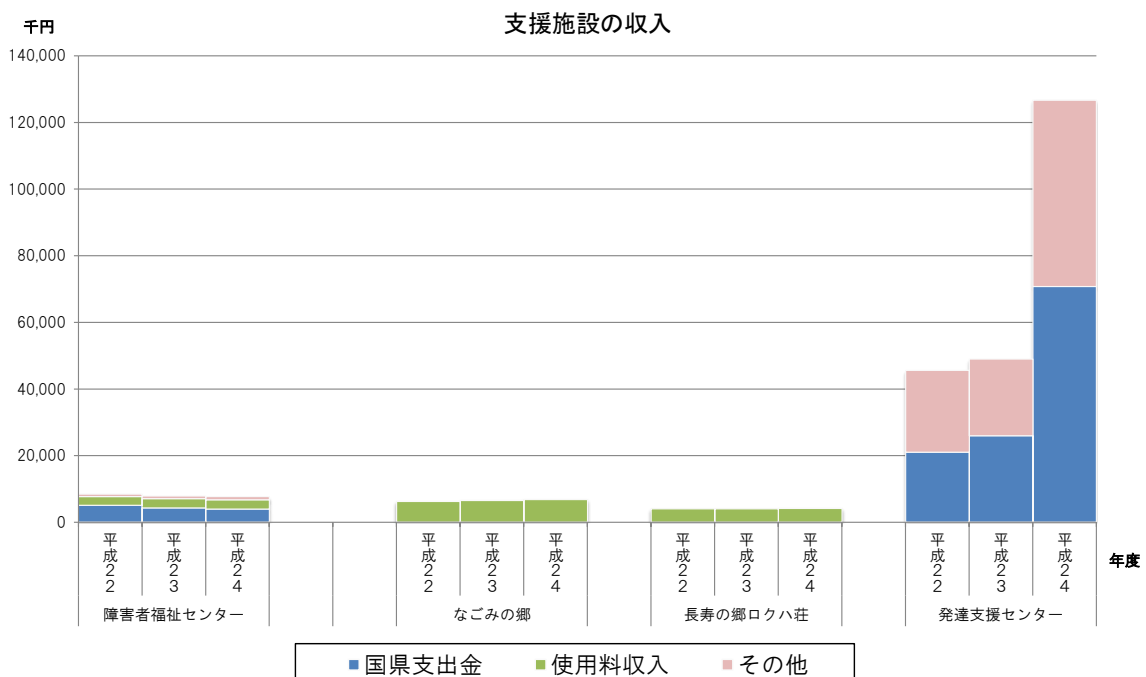
隣保館の収入は、主に国県支出金により賄われています。使用料による収入は、西一会館が多く、20～30 万円で推移しています。



* 新田会館分館は、新田会館に合算しています。

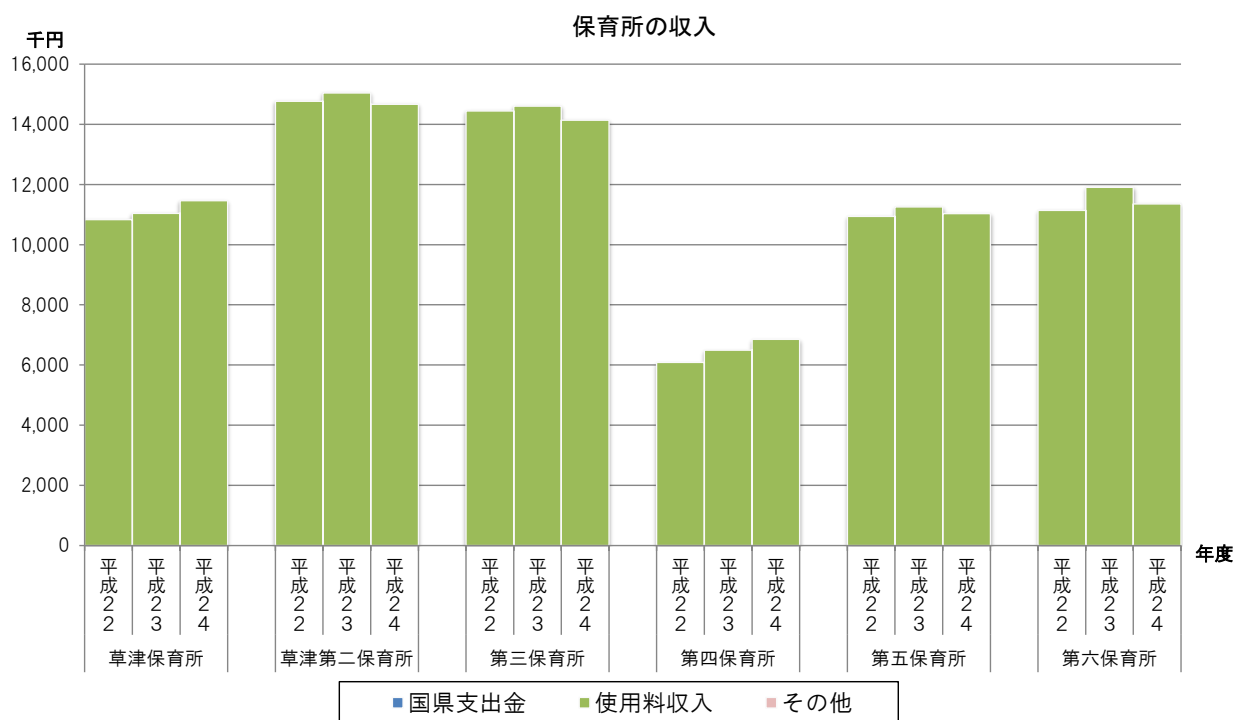
b) 支援施設

支援施設の収入は、平成 24 年度の発達支援センターが他と比べて多く、そのほとんどが国県支出金です。他の施設では、400～600 万円前後となっています。さわやか保健センターは収入がありません。



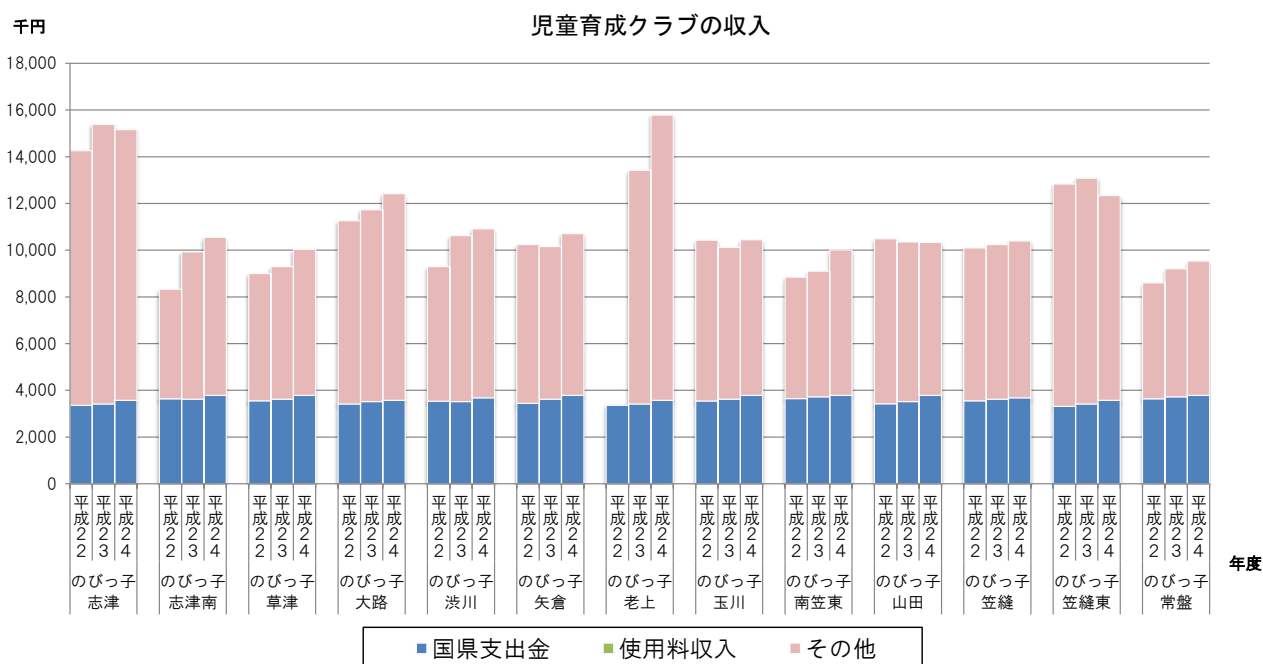
c) 保育所

保育所の収入は、草津第二、第三保育所が多く、1,400～1,500 万円前後で推移しています。収入が最も低い施設は第四保育所で、600 万円前後となっています。



d) 児童育成クラブ

児童育成クラブの収入は、すべての施設で国県支出金による収入が、毎年 350～400 万円となっています。また、その他の収入が 1,000 万円を上回る施設は、志津、老上（平成 23、24 年度のみ）となっています。のびっこ老上は平成 23 年度に開設されており、平成 22 年度の収入は施設整備のための国県支出金のみです。



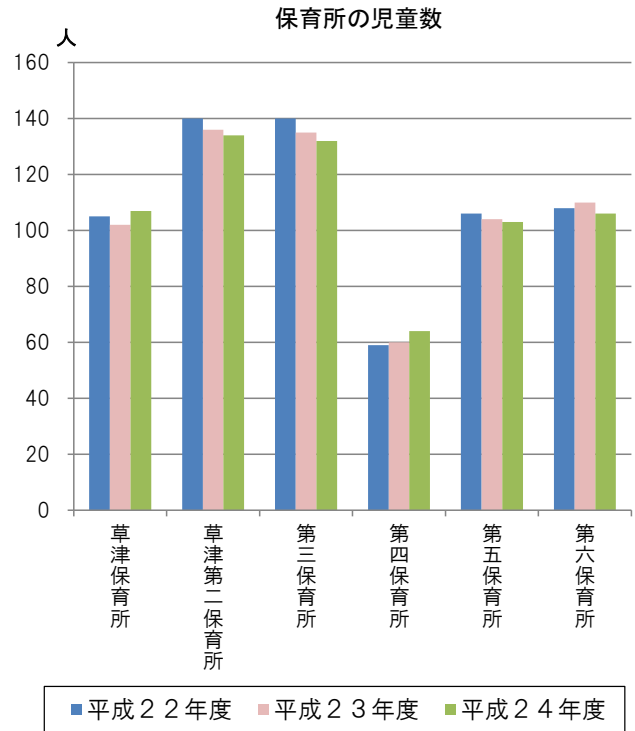
(4) 施設の利用状況

①利用者数

a) 保育所

保育所の児童数は、草津第二・第三保育所が130人を超えていますが、第四保育所は、60人前後となっています。

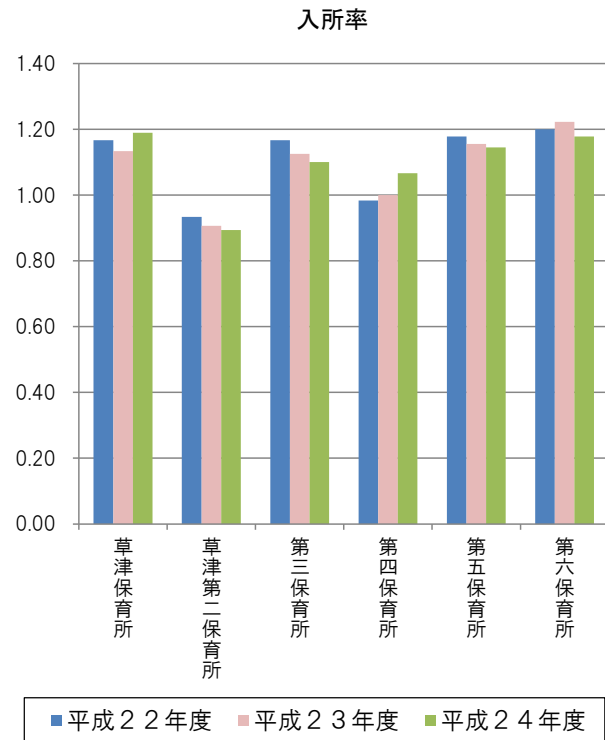
その他は100人前後で推移しています。



保育所の入所率は、草津第二保育所で1割程度の定員割れとなっていますが、ほかの施設では、100%を超えています。

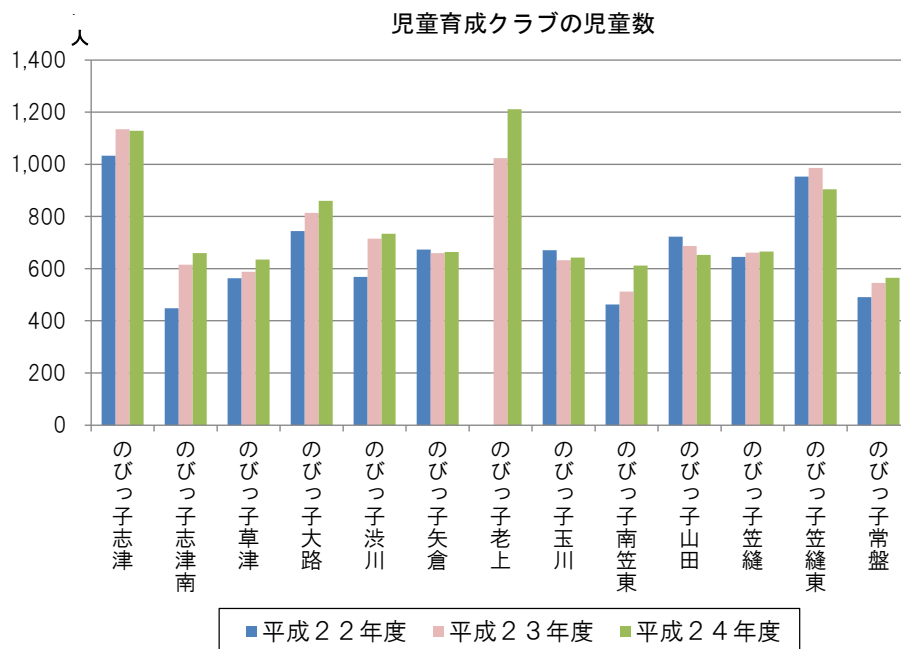
保育所の定員数

	保育所定員数		
	H22	H23	H24
草津保育所	90	90	90
草津第二保育所	150	150	150
第三保育所	120	120	120
第四保育所	60	60	60
第五保育所	90	90	90
第六保育所	90	90	90



б) 児童育成クラブ

平成 24 年度における児童育成クラブの年間延べ利用者数は、老上、志津、笠縫東の順に高くなっています。また、志津南・草津・大路・渋川・南笠東・笠縫・常盤では利用者が増加していますが、山田では減少傾向にあります。



②部屋別利用状況

а) 隣保館

隣保館には、主に会議室（大・小）・調理室・和室等があります。

隣保館の整備状況

学区	施設名称	大会議室	小会議室	研修室	多目的室1	多目的室2	情報収集室	教養娯楽室	調理室	音楽療養室	サロン	子育てサロン	和室	食堂	相談室	集会室	研修・プレイルーム	学習室
草津	西一会館	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●			
山田	新田会館	●	●				●		●	●	●		●	●	●			
山田	新田会館分館																●	
老上	橋岡会館	●		●			●		●		●		●	●	●			●
常盤	常盤東総合センター	●		●	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●		

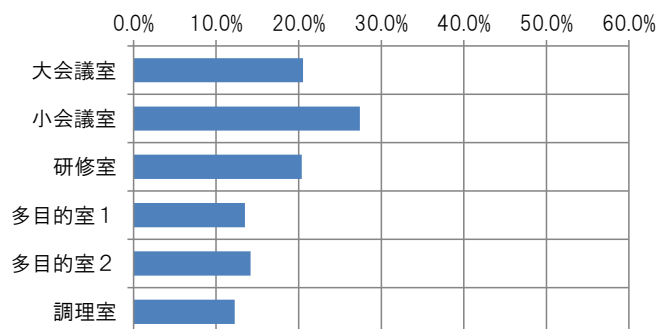
平成 24 年度における各隣保館の部屋別利用状況は、次のようになります。サロンは、住民の交流の場として毎日利用されています。

<西一会館>

西一会館の部屋数は 12 室あり、会議室や多目的室などがあります。

会議室の利用率は比較的高く 20%以上となっていますが、多目的室や調理室は 15%前後となっています。

西一会館 平成 24 年度施設年間利用状況

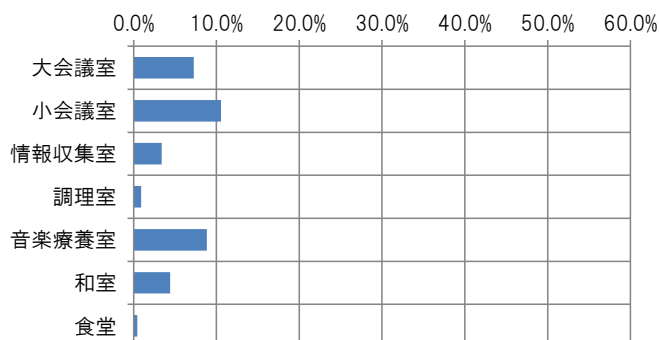


<新田会館>

新田会館の部屋数は 9 室あり、会議室やサロン、食堂など多岐にわたっています。

全体的に各部屋とも利用率は低くなっています。また、調理室や食堂はほとんど利用されていません。

新田会館 平成 24 年度施設年間利用状況



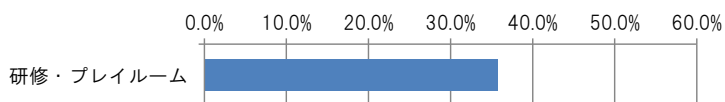
<新田会館分館>

新田会館分室は、児童館として主に利用されています。

利用可能な部屋として、研修・プレイルームがあります。

利用率は約 35%となっています。

新田会館分館 平成 24 年度施設年間利用状況

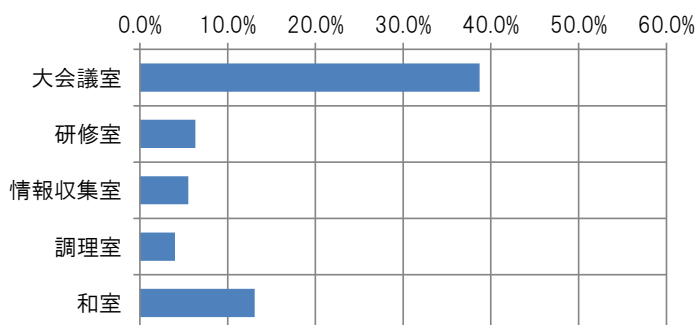


<橋岡会館>

橋岡会館の部屋数は 9 室あり、会議室や調理室、和室などがあります。

大会議室は、1 日に複数回利用されることもあり、利用率が 35%を超えています。その他の部屋は、全体的に利用率が低くなっています。

橋岡会館 平成 24 年度施設年間利用状況

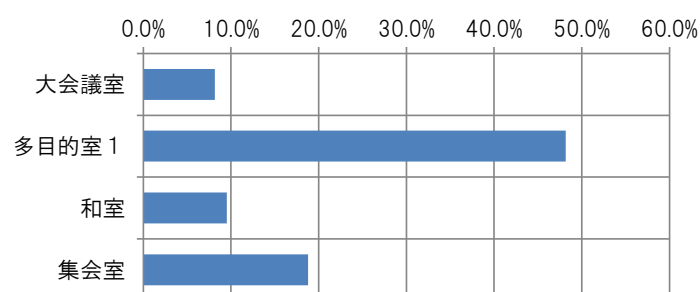


<常盤東総合センター>

常盤東総合センターの部屋数は 12 室あり、会議室や多目的室、集会室などがあります。

多目的室は、1 日に複数回利用されることもあり、利用率が 45%を超えています。その他の部屋は、全体的に利用率が低くなっています。

常盤東総合センター 平成 24 年度施設年間利用状況



b) 支援施設

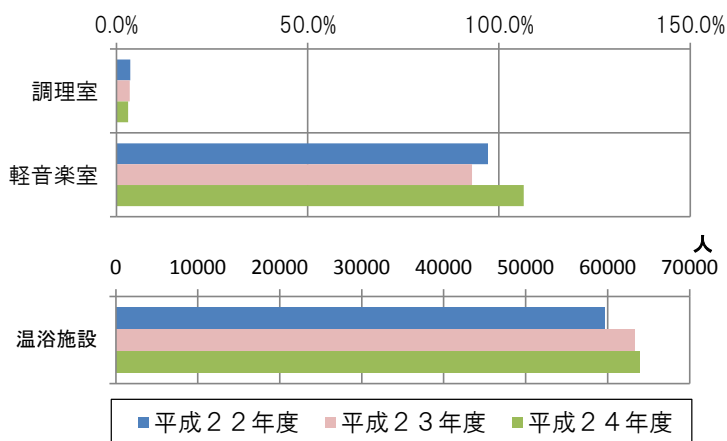
＜なごみの郷＞

なごみの郷の利用状況は、軽音楽室が 100%前後と稼働率が高くなっていますが、調理室の利用率は低い状況です。

また温浴施設は、毎年 6 万人以上が利用しており、増加傾向にあります。

利用率が 100%を超えているのは 1 時間毎の利用が可能であるためです。利用率の算出法は 28 ページに記載しています。

なごみの郷 部屋別年間利用状況



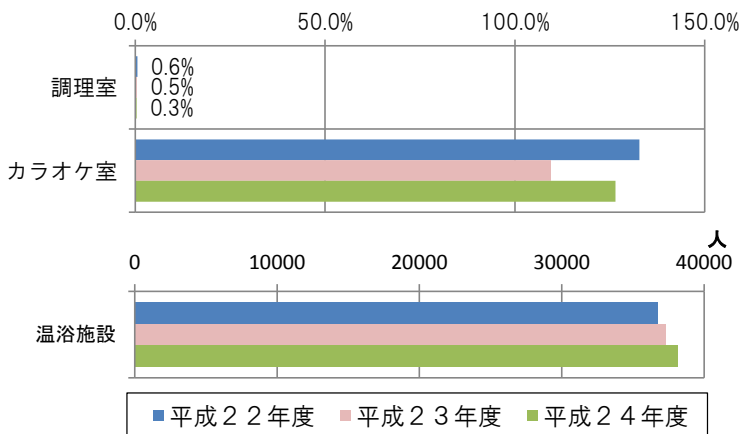
＜長寿の郷ロクハ荘＞

長寿の郷ロクハ荘の利用状況は、カラオケ室が 100%以上と稼働率が高くなっていますが、調理室の利用率は低い状況です。

また、温浴施設は、毎年 3 万 5 千人以上が利用しており、増加傾向にあります。

利用率が 100%を超えているのは 1 時間毎の利用が可能であるためです。利用率の算出法は 28 ページに記載しています。

長寿の郷ロクハ荘 部屋別年間利用状況



(5) 施設の現状と問題点

【隣保館】

隣保館は4施設とも建替えが完了していますが、付属棟は大規模な修繕・更新が必要となる築30年以上を経過しており、これらについては、具体的な長寿命化の方策や建物更新について検討が必要です。

利用状況では、サロンや会議室の利用率は高いですが、調理室は利用率が低いことや、地域により部屋別利用にばらつきがみられることから、社会や時代の変化に応じた施設機能の転換や利用率向上対策など、市民が利用しやすい施設への改善やサービス充実などの検討が必要です。

【支援施設】

支援施設は、建築後の経過年数が少ない施設が過半ですが、それ以外の築30年以上経過する施設については、具体的な長寿命化の方策や建物更新について検討が必要です。

コスト面では、なごみの郷や長寿の郷ロクハ荘など、工事費を除く維持管理費が高い施設についてコスト縮減の検討が必要です。

利用状況では、なごみの郷や長寿の郷ロクハ荘の温浴施設利用者や音楽関連施設の利用が好調な反面、調理室はほとんど利用されていないことから、市民が利用しやすい施設への改善やサービス充実などの検討が必要です。

【保育所】

保育所は、築30年以上のものが半数以上を占めていることから、具体的な長寿命化の方策や建物更新について検討が必要です。

コスト面では、コストが年々低下している施設と増加している施設があることから、原因究明と全体を通したコストの見直しが必要です。

保育所の入所率は、全体として100%を超えており、共働き世帯の増加など、就労形態の多様化により今後も保育ニーズの増加が見込まれます。

【児童育成クラブ】

コスト面では、単位面積当たりのコストに差があることから、コストが高い施設の原因究明とコストの見直しが必要です。

利用状況を見ると、就労する保護者からの利用ニーズは増加することが予想されることから、適正な規模でサービスが提供できる環境を含め、今後の児童育成クラブのあり方について検討が必要です。